

刑法審査修正案註解 第一編

6468



特 713
6468
卷

刑法審查修正案註解 第一編

昭和八年五月十四日
鶴田乙丑氏贈

本條凡法律ニ於テ罰ス
 一キ罪ヲ三種ト為スト
 アレハ何法ニ記載シタル
 罪トモ此三種ノ區別
 三條ハサルヲ得ヌ然ルニ
 從未施行スル處ノ法
 ニハ罪ノ區分ナキヲ以テ
 本條ニ引擬セトスル他
 三註解ノ如キ數條ヲ
 設ケ夫々其罪ノ區別
 ヲ立タル上ニ非サレハ此
 一條ノミヲ以テ一切ノ法
 記載スル罪ヲ三種ニ區
 別シテ處罰セトスルハ附
 會ノ其レヲナシテモ
 人此條ヲ一讀スルキ如何
 ノ見解ヲ下スヘキヤ恐ラ
 ク他ノ法律ニ及ハサ
 ル者ト解スルナラン

11

第一編 總則

第一章 法例

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪別テ三種ト
 為ス

- 一 重罪
- 二 輕罪
- 三 違警罪

諸々犯罪三而止ラス何故ニ三種ニ大別ス
 ルヤ蓋シ官犯人ヲ糾治裁決スルヲ三種ニ
 大別シテ處分スルノ最モ簡且ツ便ナルノ
 故ヲ以テナリ既ニ三種ニ大別スル時ハ刑
 法治罪法ノ各條ニ於テ數多ノ犯罪ヲ一々

記載スルノ繁縟ヲ免カル、下亦知ル可シ
本條此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ三種ト
為スト記セヌシテ凡法律ニ於テ云々ト記
載スルニ於テハ此ノ刑法ノ外他ノ規則罰
例ニ記載スル犯罪モ亦本條ニ引擬シ三種
ニ區別シテ糾治裁決ス可キト明ナリ故ニ
他ノ規則ニ掲ケタル罰金ノ幾個以下ハ違
警罪禁獄ノ何月ハ輕罪等ト見做シ本刑法
第二十四條及ヒ第二十九條等ニ引照シ各
所屬ノ裁判所ニ於テ處断ス可キト辨テ待
タスシテ知ル可シ然ルニ本刑法第五條ニ
他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル
者ハ此ノ刑法ノ總則ニ從フトアリ此條ノ

反對ノ意ヲ考フルニ他ノ法律規則ニ於テ
別ニ總則ヲ掲ケタル者ハ此ノ刑法ノ總則
ニ從フ可カラスト為ス者ニ似タリ果シテ
然ル時ハ本條凡ノ法律ニ於テ罰ス可キ罪
ハ重罪輕罪違警罪ノ三種ニ區別スト謂フ
ト雖モ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲
ケタル者ハ又本條ニ引擬ス可カラスト疑
問ヲ起サンコト必セリ此疑問タルヤ其謂レ
ナキニアラス然リト雖モ第五條ハ他ノ法
律規則ニ於テ宥恕減輕酌量減輕再犯加重
等ノ法ヲ用ヒス又數罪俱發スル時ハ各自
ニ其刑ヲ科ス等ノコトヲ特別記載セサル時
ハ此刑法ノ總則ニ從フ可シ下謂フ義ニシ

テ唯夕處分上ノ事ニ関スル者トス本條ハ
他ノ法律規則ニ特例ヲ掲ケタルニ拘ハラ
ス諸々罪トシテ罰ス可キ者ハ本條ニ引擬
シ三種ノ區別ニ從ヒ各所屬ノ裁判所ニ於
テ糾治裁決ス可シト謂フ義ナリ其意兩條
各異ナル者トス

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所為ト雖
モ之ヲ罰スルコトヲ得ス

法律ニ於テ禁セサル所為ハ即チ為ス
可キノ所為ナリ為ス可キノ所為ヲ為シテ
罰ヲ受クルノ理アルナシ本條ハ改定律例
第九十九條ヲ改正シタル者ニ似タリ正理
ニ進ミタル法ト謂フ可シ改定律例第九十

九條ニ曰凡律例ニ罪名ナク令ニ制禁アリ
及ヒ制禁ナキ者各所犯ノ輕重ヲ量リ不應
為違令違式ヲ以テ論シ情罪重キ者ハ違制
ニ問擬スト即チ是レナリ

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホス

コトヲ得ス
若シ所犯頒布以前ニ在テ未夕判決ヲ經サル
者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處断ス
本條前項ハ前條ノ餘意ヲ述フル者ナリ後
項ハ舊律施行ノ際犯シタル罪ノ新律頒布
ノ後發覺シタル時ノ處分ヲ示ス舊律トハ
新律綱領改定律例等ニシテ新律トハ此刑
法ニ新ニ頒布スル所ノ罰則等ナリ論者

比較表ハ到底出來
ル可シ然ルニ又此註解
ノ如ク處分スルハ若シ
上告シタル片大審院
ニテ當各ヲ審判スルコ
ト困難ナルヘシ故ニ
本條ハ本刑法頒布以
前ノ犯罪ニ及ハサルコ
ト改メテ如何ト思考
セリ

曰舊法新法ノ輕重ハ比較表ヲ製シ之ヲ定
ムルニ非レハ判官ヲシテ其判断ニ惑ハシ
ムト誠ニ論者ノ說ノ如ク比較表ヲ制定ス
ルヲ得ハ更ニ喋々スルニ及ハスト雖モ未
タ其比較表ナキニ於テハ如何ニ處分ス可
キヤ本條ハ判官ヲシテ犯人ノ身心ニ感ス
ル所ノ輕キ刑ヲ撰擇セシムト解明セサル
ヲ得ス既ニ犯人ノ身心ニ感スル所ノ輕キ
刑ヲ撰擇セシムト云ヘハ例ヘハ茲ニ一罪
犯アリ舊法ニ照セハ百日ノ懲役トス新法
ニ依レハ三月ノ禁錮ヲ出スト雖モ三十圓
ノ附加刑アレハ舊法ニ依テ科断シ若シ其
犯人富有ナル時ハ舊法ヲ棄テ新法ニ依リ

又新法ハ長期短期ノ間若干ノ月日アルヲ
以テ其長期ハ舊法ノ確定シタル刑期ヨリ
長シト雖モ若シ所犯情狀輕キ者ハ舊法ヲ
棄テ新法ノ短期ニ處シ又新法ニ依レハ歳
老タルヲ以テ其刑ヲ減輕セスト雖モ舊法
ニ依レハ老者ハ收贖ヲ免スヲ以テ旧法ニ
依テ處断シ又旧法十六歳以上ノ者ハ減輕
ヲ得スト雖モ新法ニ依レハ二十歳以下ノ
者ハ減輕ヲ得ルヲ以テ新法ニ依テ處断ス
ル等總テ犯人ノ身心ニ感スル所ノ輕キ刑
ニ從テ處断ス可キト本條ノ意ナル可シ
第四條 此刑法ハ陸海軍ニ関スル法律ヲ以テ
論ス可キ者ニ施用スルヲ得ス

軍衙ニ軍律アリ軍人罪ヲ犯セハ軍律ニ依
テ處断ス可キハ更ニ疑ヲ容ルハニ足ラス
然ルニ本條陸海軍ニ関スル法律ヲ以テ論
ス可キ者ニ施用スルヲ得スト謂フヲ以
テ考フレハ陸海軍人ト雖モ陸海軍ノ法律
ニ關セサル罪ヲ犯ス時ハ此ノ刑法ニ依テ
處断ス可キト亦疑ヲ容ルハニ足ラス故ニ
陸海軍人ト雖モ若シ此ノ刑法ニ記載スル
罪ヲ犯ス時ハ此ノ刑法ニ依テ處断ス可キ
者トス

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則
ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ
若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサ

本刑法頒布ノ節ハ
新律綱領改定律例
廢止ノ布告ヲ發セサ
ルヲ得ス否ヲサレハ例
不應為ニ向擬セラレハ
弊ヲ免カルヲ得ス

地者ハ此刑法ノ總則ニ從フ
本條ハ此刑法ノ外他ノ法律規則ニ違背シ
タル者ハ其法律規則ニ從テ處断ス可キト
謂フ然ルニ他ノ法律規則ニ違背シタル
者再犯ニ係ル時ハ如何數罪俱發シタル時
ハ如何減輕ス可キ情狀アル時ハ如何罰金
ヲ納完セサル時ハ如何若シ他ノ法律規則
ニ於テ別ニ總則ヲ設ケテ此刑法ノ總則ニ
依ラサルヲ明記シタルニ非サレハ此刑
法ノ總則ニ從テ處分セサルヲ得ズ故ニ他
ノ法律ニ違背シタル者再犯ニ係ル時ハ陸
海軍律ニ依テ處断シタル者ヲ除クノ外罰金
ノ多寡禁獄ノ長短ヲ此刑法第二十四條第

廿六條第二十八條等ニ比照シテ加重シ數
罪俱發シタル時モ亦一ノ重キニ從テ處斷
シ減輕ス可キ情狀アル者モ亦第七十九條
以下ニ照シテ減輕シ罰金ヲ納完セサル者
モ亦第二十七條第三十條ニ照シテ處分ス
ル等概シテ此ノ刑法ノ總則ニ從テ處分ス
可キ者トス

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト為ス
主刑ハ之ヲ宣告ス
附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セ

サル者トヲ定ム

一 宣告ヲ用ヒテ附加スル者ハ罰金沒收及ヒ
輕罪ニ附加スル監視トス其宣告ヲ用ヒス
直テニ附加スル者ハ剝奪公權停止公權禁
三 治産及ヒ重罪ニ附加スル監視等トス第三
十二條以下見合ス可シ
第七條 重左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑
ト為ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 無期徒刑
- 五 有期徒刑

六 重懲役

七 輕懲役

八 重禁獄

九 輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト為ス

一 重禁錮

二 輕禁錮

三 罰金

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト為ス

一 拘留

二 科料

六 犯罪ヲ三種ニ大別スル時ハ又其犯罪ニ適當スル刑ヲ定メサル可カラス此レ死刑以下拘留科料ニ至リ各其輕重アル刑ヲ三種ニノ罪ニ配當シタル所以ナリ犯罪英ニ其刑ニヲ三種ニ區別スト雖モ又一般ノ犯罪中其一公害ヲ為スハ更ニ輕キニ非スシテ止タ本犯ノ心事ニ於テ普通ノ刑ニ處ス可カラサ
十 者アリ即テ國事ニ關スル罪其他惡意ノ輕キ罪是ナリ本刑法此等ノ犯罪ヲ待ツ為メニ重罪ニ於テハ徒刑懲役ノ外流刑禁獄ノ刑ヲ設ケ輕罪ニ於テハ輕禁錮ノ刑ヲ設ケタル所以ナリ
但違警罪ニ至テハ其刑至輕ニシテ惡意ノ

輕重ヲ別テ其刑ヲ區別スルノ地ナシ且ツ
違警罪本條ニ依レハ此犯罪ハ惡意ノ有無
ニ關セス專ラ各種ノ規則ニ違背シタル者
ヲ罰スル法ニ係ル是レ違警罪ノ一種ノ刑
ニ從フ所以ナリ

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト為

- 一 剝奪公權
- 二 停止公權
- 三 禁治產
- 四 監視
- 五 罰金
- 六 沒收

附加刑ハ主刑ト共ニ終リ又主刑期限ノ長
短ニ關セズ一時ニ科斷セラレ、者アリト
雖モ剝奪公權監視ノ二刑ハ主刑ノ終リタ
ル後チ仍ホ終身又ハ若干時間免ルハ得
サル者トス此レ世ノ害ヲ為ス最モ重キ者
トシ主刑ノ終ルヲ以テ純白無疵ノ者ト等シ
ク公權ヲ行ハシム可カラズ又世害ヲ為ス
甚タ重キニ非ラスト雖モ其罪狀ニ依リ後
來ヲ戒ム可キ者ハ主刑ノ終ルヲ以テ直チ
ニ常人視ス可カラサルヲ以テナリ是レ專
ラ世ノ安靜ヲ全フスル為メ設ケタル者ト
ス禁制ノ物件及ヒ犯罪ニ用ヒタル物件ヲ
沒收スルモ亦此意ニ外ナラス

第十一條

刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方
法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

主刑并ニ附加刑處分ノ綱領ハ本刑法記載
アリト雖モ其細目ニ至テハ能ク本刑法ノ
盡ス所ニアラス此レ本條ヲ揭ケタル所以
ナリ

第二節 主刑處分

第十二條

死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ
官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

古人既ニ死刑ノ存廢論アリ其論至レリ盡
セリ然ルニ未タ全ク死刑ヲ廢スルニ至ラ
サル者ハ何ツヤ蓋シ世ノ開化未タ全ク死
刑ヲ廢スルノ度ニ至ラサルヲ以テ存スル

者ナル可シ本刑法死刑ヲ設ケタリト雖モ

梟ヲ止メ斬ヲ採ラス獨リ絞ノミニ從フハ

復タ世ノ開化ニ進ミタル者ト謂フ可シ

論者曰死刑ヲ行フハ世人ノ周ク觀ル所ニ

於テスルヲ可トス否ラサレハ死刑ヲ設ケ

世人ヲ畏懼セシムル所ノ旨趣ニ背ク者ナ

リト論者ノ說理アルニ似タリ然リト雖モ

未タ盡セリト為スニ足ラス何トナレハ世

人ノ周ク觀ル所ニ於テ之ヲ行フモ又獄内

ニ於テ之ヲ行フモ其死刑ニ處スルハ等シ

ク一ナリ既ニ死刑ニ處スルト謂ヘハ假令

獄内ニ於テ之ヲ行フト雖モ世人ノ心ヲシ

テ畏懼セシムルニ足ルヲ必セリ然ルノミ

ナラス世人ヲシテ周ク此慘状ヲ觀セシムル時ハ翻テ苛虐ノ風ヲ學ハシムルニ至ラニ是レ立法者古來ノ實驗ニ從ヒ磔ヲ止メ梟ヲ廢シタル所以ナリ本條獄内ニ於テ之ヲ行フト定メタルハ正ニ此意ニ外ナラサル可シ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フト得ス

死刑ヲ行フト司法卿ノ命ヲ待タシムルハ死刑ハ一タヒ決行スル時ハ復タ還ラサルヲ以テ其行刑ヲ懂マシムル意ニ出タル者トス且ツ司法卿憫諒ス可キ情状ヲ發見スル時ハ赦典ヲ奏請スルヲ得ルヲ以テ其命

令ヲ待タシムルニ定メタル者ナリ

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フト禁ス

死刑ハ固ト不祥ノ具ナリ慶賀ノ日ニ當リ之ヲ行フハ人情ノ喜ハサル所トス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナリ時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ経ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

本條ハ舊法ニ從ヒ兒子ノ生育ヲ慮ル為メニ設ケル者ナリ清律ノ註ニ曰所生ノ子ヲ乳スル已ニ百日ニ滿レハ子哺食續命ス可シ然後刑ヲ行フト論者曰本犯罪状惡ム可

ト雖モ既ニ兒子ヲ生育スルニ於テハ復
タ寬典ノ處分ヲ奏請スルヲ得ト是レ本條
ノ餘意ヲ發スル者ナリ

第十六條

死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレ
ハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルヲ許サス
死刑ノ遺骸ヲ下付スルハ親屬故舊ノ愛情
ヲ全フスル為メナリ雖然犯罪既ニ死刑ニ
該レハ其惡極ルト謂フ可シ式ヲ用テ葬ル
トヲ許サハルモ亦人情ニ適フ者トス是レ
本條ノ設ケアル所以ナリ

第十七條

徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發
遣ニ定役ニ服ス
有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト為ス

佛國革命後數年間無期ノ刑ヲ廢止シタル
トヲ聞シ外各國刑法未タ無期徒刑ノ存廢論
アリシヲ見ス蓋シ世ノ開化未タ全ク死刑
ヲ廢スルニ至ラサレハ無期徒刑ノ廢セラレ
サルハ當然ノ事ナル可シ無期徒刑ハ固ト死
刑ノ一部ニ準スル如キ者ト雖モ直チニ人
ノ生命ヲ斷ツニ非サレハ亦死刑ト同視ス
可カラサルヲ知ル可キノ故ニ今無期徒刑
ヲ設置スルノ意ハ其罪重クシテ人間ニ齡
セシム可カラスト雖モ復タ直チニ刑殺ス
ルニ忍ハサル者ヲ待ツ所以ナル可シ論者
曰死刑ハ一タヒ行ヘハ復タ生ス可カラス
無期徒刑ハ生命ノ在ル有ルヲ以テ後日ノ寬

典ヲ得ルヲアル可シト是レ此ノ刑設置ノ
餘意ヲ發スル者ト謂フ可シ

有期重罪ノ刑各國刑法ヲ參觀スルニ大概

二十年、二十五年、三十年ノ長キニ至レリ實

ニ長シト謂ハサルヲ得ス本刑法其長期ヲ

十五年ニ止メタリ今暫ク近時發行ノ獨乙

國有期徒刑長短論ナル者ノ大意ヲ摘採シ

テ本條ノ注解ニ換ントス

其論ニ曰徒刑ノ長キニ過ルハ其目的ヲ達

スル能ハサルノミナラス處刑ノ効ヲ減シ

罪囚ノ懲戒ヲ得ルハ多クハ十年以內ノ刑

ニテ其期ノ長クテ出ル能ハズ然リキハ直ニ

片ハ其期ノ長クテ出ル能ハズ然リキハ直ニ

生キテ其期ノ長クテ出ル能ハズ然リキハ直ニ

思想ヲ懷テ以テ更ニ悔悟ノ念ヲ發セズ且

ソ猛惡ナル囚徒ハ愈々猛惡ノ心ヲ益ス等種

驗アリ實或ハ放免後職業ニ就ク能ハサルノ

廢身者トナリ人民保護ノ為ノ施行スル所

ノ刑罰ハ還テ人民社會ニ害ヲ作ルノ設ト

為ルト長キ徒刑ニ處セラレタル者ノ身體

ニシテ放免セラレ得ル者アリトモ刑期ノ長

キニ從ヒ示シテ得ル者アリトモ刑期ノ長

テ自ラ自棄ノ者比々皆是ナリ云々故ニ獨乙

犯スニ至ル者比々皆是ナリ云々故ニ獨乙

新刑法ニ於テハ徒刑監禁ノ長期ヲ十五年

ト定メタリ刑期ノ甚短キニ過ルモ人民漸

御ノ云々司法內務兩本條有期重罪ノ刑ノ長

期ヲ十五年ニ止メタルモ正ニ此意ニ外ナ

ラサル可シ

有期徒刑以上ノ者ヲ島地ニ發遣スルハ一

ハ其逃走ヲ防キ一ハ政府ノ便益ヲ計ルニ

司去

出タル者ナリ可シ其島地ニ在テ定役ニ服
セシムル方法細目ハ別ニ規則アルヲ以テ
今茲ニ之ヲ贅セス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地
ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

本條婦女ヲ内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服
セシムルハ婦女ハ男夫ノ如ク勞役苦使ニ
堪ヘス且又男夫ノ如ク逃走ノ患少ケレハ
ナリ

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ
定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

本條ハ老者ヲ憐ムノ意ニ出ル者トス老者
ヲシテ壯者ト等シク勞役苦使セシムル時

ハ其體軀ヲ全スルヲ殆ント稀ナリ故ニ服
役ノ場所ニ於テモ必ス壯者ト各別ニ為ス
ナリ可シ

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄
ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト為ス
流刑ハ國事ニ關スル犯罪ヲ待ツ為メ設ク
故ニ該囚徒ヲ島地ニ發遣スルハ餘黨ノ再
發ヲ防クニ頗ル便ナリトス且ツ國事ニ關
スル罪ハ其害多シト雖モ普通犯罪ノ如ク
廉耻ヲ破ルニ非レハ總テ定役ニ服セス唯
島地ノ獄ニ幽閉スルノミ
有期流刑ノ期限ヲ十五年ニ止メタルハ前

條徒刑ニ權衡ヲ取リタル者トス

第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ
幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシム
ルヲ得

有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

流刑ハ定役ヲ課セス唯幽閉スルヲ以テ本
則ト為スト雖モ本條記載シタル年數ヲ經
能ク獄則ヲ守リ悔改ノ状ヲ表スル者ハ亦
幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムルヲ得
ル寬典ヲ受クル者トス雖然此ノ幽閉ヲ免
スルヲハ政府ノ便宜處分ニ付シタル者ナ
ルヲ以テ其悔改ノ状ナキ者ハ決シテ幽閉
ヲ免ル、_一ヲ得サルヤ必セリ本刑法第三

第十六條ニ依レハ幽閉ヲ免セラレ地ヲ限リ

居住スルヲ許サレタル者ハ還テ治産ノ禁
ノ幾分ヲ免サル、_一ヲ得ル者トス

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役
ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ
從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年
以上八年以下ト為ス

本條ニ有期徒刑ニ次ク所ノ犯罪ヲ罰スル
重為メニ設ク數ニ其年限ヲ十一年ニ止ム其
島地ニ發遣セサルハ刑期ノ短キヲ以テ自
カラ逃走ノ患少ク且ツ政府其手數ヲ省ク
為メ内地ニ於テ定役ニ服スルニ定メタ

ル者トス

第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入シ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト為ス

本條モ亦國事ニ關スル犯罪ヲ待ツ為メニ設ク故ニ服役ノ法ナシ島地ニ送遣セサルハ流刑ニ比スレハ其罪輕キヲ以テ餘黨再發ノ患少ク且ツ前條ト等シク政府其手數ヲ省ク為メ内地ノ獄ニ入シ置ク者トス本條刑ノ權衡ハ前條ニ取リタル者ナリ故ニ其長期ヲ十一年ニ止メタリ

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ

定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト為シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

輕罪ノ刑ハ其權衡ヲ重罪ニ取リ長期ヲ五年ニ止メタリ其加等ス可キ者ハ五年ヲ過ルコトアリト雖モ到底重罪ニ混セサルヲ要シタル者トス第七十條末項ニ曰輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルコトヲ得ト是ナリ本條短期ヲ一日ト為シ長期ヲ五年ト為スト雖モ總テノ輕罪一概本條ノ刑期ヲ科ス可カラサルヲ以テ罪名ヲ記載スル各條ニ於テ仍ホ其長短ヲ區別セリ例ハ夫々

ノ犯罪ハ一月以上一年以下ノ禁錮ニ處シ
又夫々ノ犯罪ハ三月以上三年以下ノ禁錮
ニ處スト記載シタルカ如シ
輕禁錮ハ服役ナシト雖モ一概國事ニ関ス
ル罪ヲ待ツ為メニ設ケタルニアラス通常
ノ罪ヲ犯ス者モ其惡意ノ輕キ時ハ仍ホ此
刑ニ處スル者トス

第二十五條

定役ニ服スル囚人ノ貸錢ハ監獄
ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其
幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與
ノ限ニ在ラス

禁罪犯ヲ定役ニ服スルハ勞役苦使シテ以テ
其惡ヲ改メ善ニ遷ラシムルノ意ニ出ル者ト

ス何ノ故ニ貸錢ノ幾分ヲ其犯人ニ給與ス
ルヤ蓋シ資産ナキ者ハ放免ノ後其活路ヲ
得ルヲ難キヲ以テ再ヒ罪ニ陷ルヲアリ因
テ其生業ヲ營マシムルノ資金ニ充ル為メ
ナリ且ツ貸錢ヲ給與スル片ハ大ニ其力役
ヲ勉メ随テ其惡心ヲ改ムルニ足ルヲ以テ
ナリ
現役百日以下ニ係ル者モ力作ノ貸錢ヲ生
セサルニ非スト雖モ其期限短キヲ以テ多
クハ獄費ヲ償フニ足ラス且ツ在役經久ニ
亘ラサル者ハ世人ノ厭惡ヲ生スル薄ク隨
テ生業ニ就クヲ難カラサルヲ以テ該罪犯
ニ貸錢ヲ給與セサル所以ナリ

第二十六條 罰金ハ二圓以上ト為シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

刑法學者常ニ曰罪犯ヲ懲戒スルハ身體ヲ苦シメ財産ヲ徵收スルニ過ル者アラスト然ルニ彼ノ財産籍沒法ナル者廢セラレシ以來各國刑法通用貨幣ノ外他ノ財産ヲ徵收スル者ナシ既ニ罪犯ヲ懲戒スルハ財産ヲ徵收スルニ過ル者アラスト謂ヘハ貨幣ノ外他ノ動不動産ヲ徵收スルモ亦不可ナキニ似タリ然ルニ獨リ貨幣ノミヲ徵收スルハ何ソヤ此レ唯官民ノ便利ヲ度ルニ出タル者ナル可シ亦活法ト謂フ可也故ニ罰金ハ輕罪ノ主刑ナリ故ニ此刑法ノ外他

ノ規則罰例ニ於テ何千圓ノ罰金ヲ科スルモ若シ此刑法ト俱發スル片ハ仍ホ輕罪ト見做シ處分ス可キ者トス故ニ此刑法ニ於テ豫メ罰金ノ多數ヲ何圓ト定メ置ク片ハ他ノ規則罰例ニ此刑法ニ定メタル數ヨリ多クノ罰金ヲ科スルヲアル片ハ何罪ト見做シ處分ス可キヤ其定度ヲ得難キヲ以テ豫メ茲ニ其多數ヲ掲ケサル者トス

第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス

檢事ノ求メニ因リ裁判官之ヲ命ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス但親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

本條ハ貧窮ニシテ罰金ヲ出ス能ハサル者并ニ貪欲ニシテ罰金ヲ出サ、ル者ノ為メニ設ク各國刑法罰金ヲ出サ、ル者ヲ禁錮スル法アリト雖モ概ネ禁錮ノ期限一定セサルヲ以テ公平ノ處分ヲ為スヲ得ス故ニ本條ニ於テハ一圓ヲ一日ニ折算シ禁錮ニ換フルヲ定メタリ公平ヲ得タリト謂フ可シ

本條ハ犯人ノ資産ヲ調査シ身代限ノ處分

ヲ經ルノ後仍ホ納完スル能ハサル時初テ禁錮ニ折算スト論スル者アリ然ルト雖モ本條ノ文意ヲ考フレハ決シテ如此者ニ非ス其裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシムト謂ヘハ犯人ヲシテ此間ニ於テ百方納完ニ力ヲ盡サシムル意ニ非スヤ又更ニ裁判ヲ用ヒス檢事ノ求メニ因リ裁判官之ヲ命スト謂ヘハ官ノ手數ヲ省クノ意ニ出タル者ニ非スヤ故ニ本條禁錮ニ折算スルハ犯人ノ資産ヲ調査シ身代限ノ處分ニ付スルヲ待タス唯一月内ニ納完セサル者ハ直チニ禁錮ニ換フル者トス

既ニ一タヒ禁錮ニ換ヘタル者ハ後日罰金

ヲ納完スルモ仍ホ放免ス可カラサルヤノ
疑ナキニアラス是レ本條末項ノ設ケアル
所以ナリ

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服
セス其刑期ハ一日以上十日以下ト為シ仍ホ
各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以
下ト為シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス
違警罪ノ刑ハ其權衡ヲ輕罪ニ取リタル者
ナリ故ニ其拘留ハ十日ヲ以テ長期ト為シ
科料ハ一圓九十五錢ヲ以テ多數ト為ス其
加等シテ十一日以上又二圓以上ニ及フ者
モ仍ホ拘留科料ノ刑名ニ從ハサルヲ得ス

第七十二條合セ見ル可シ

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ
納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十
七條ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ
本條ノ意ハ第二十七條ニ同シキヲ以テ再
ヒ茲ニ之ヲ贅セス

第三節 附加刑處分

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

- 一 國民ノ特權
- 二 官吏ト為ルノ權
- 三 勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權
- 四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權
- 五 兵籍ニ入ルノ權

- 一 撰擧權
- 二 代書代言人
- 三 兵役後見ノ類
- 四 勲賞年金ノ類

- 六 裁判所ニ於テ證人ト為ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス
- 七 後見人ト為ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ為メニスルハ此限ニ在ラス
- 八 分散者ノ管財人ト為リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權
- 九 學校長及ヒ教師學監ト為ルノ權

本條ハ實ニ新設ノ者ニ係ル抑々世ノ開化日ニ進ムニ從ヒ世人舊時為スヲ得サル所者モ大ニ之ヲ為スヲ得舊時為スニ足ラストセシ所ノ者モ亦為ス可キトナリ、舊時守ルニ足ラストセシ所ノ者モ守ル可

キノ義務トナリ、又舊時ナキ所ノ事ニシテ現時人ノ尊崇スル所トナル事アル等世ノ公論既ニ舊時ニ異ナル者アルハ亦時宜ニ適當スル法ヲ制定シテ世ノ公道ヲ維持セサルヲ得ス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ、論者曰兵籍ニ入り裁判所ニ於テ證人ト為リ及ヒ後見人ト為ル等ヲ免ル、ハ其人ヲ懲罰スルニ非スシテ却テ一ノ恩惠ヲ與フル者ノ如シ且ツ凡ソ人ノ義務ヲ國家ニ負フハ皆自ラ好テ之ヲ為スニ非ス已ムヲ得サル所アリテ苟モ免ル、ト能ハサル者ナリト是レ人心ニ於テ慊ヨカラサル所ヲ恐レテ一時ニ偷安スル自棄者ノ言ニシテ道

理ヲ知ル者ノ言ニ非ス何ソヤ兵籍ニ入リ
國家ヲ保護スルハ世ノ公賞ヲ得ルニ非
スヤ後見人トナリ幼弱ヲ監護教育スルハ
一族ノ尊敬ヲ得ルニ非スヤ證人ト為リ
裁判所ニ於テ事ノ有無信偽ヲ證言スルハ
世ノ信ヲ其人ニ置クカ為メニ非スヤ凡ソ
是等ノ事ハ皆世人ノ榮譽トシテ尊崇スル
所ノ者ナリ若シ一旦此等ノ權ヲ剝奪セラ
ル、時ハ假令最下劣ノ人ト雖モ其心ニ於
テ嫌ヨキ者ニ非ス是レ本條論者ノ說アル
ニ關セス此等ノ事ヲ掲載セシ所以ナリ
以下項ヲ追ヒ解明セントス

一 國民ノ特權

四 本條冒頭ニ於テ剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪
スト謂フヲ以テ考フレハ國民ノ特權ト謂
フハ公權ヨリ外ニ權ニハ非ル可也既ニ國
民ノ特權ト謂フヲ公權ト解スルハ國民
ノ特權トハ專ラ公務ニ關スル國民ノ委員
ニ撰舉シ又其委員ニ撰舉セラレ、權英ニ
三代書人代言人評價人鑑定人ト為ルノ權等
トス

二 官吏ト為ルノ權

官吏ト為ルノ權ト謂ヘハ現任ノ官職并ニ
將來官吏ト為ルノ權ヲ剝奪スルノ及ヒ其
官等ノ高下ニ區別ナキヲ辨ヲ待タスニテ
明カナリ然レニ唯准官吏ニ至テハ如何奪

否ノ一ニ付其疑ナキヲ得ス抑モ官吏ニ準
スル者ハ其官吏ニ準シタル官私ノ待遇ヲ
受ク可キヲ當然ナリ若シ官吏ニ準シタル
官私ノ待遇ヲ受クルヲ當然ナレハ其罪ヲ
犯スニ當レハ官吏ト同シク其權ヲ剝奪セ
サルヲ得サルヲ復タ當然ノ一ナリトス
三 勲章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權
本項有スル權トアルニ於テハ刑ニ處セラ
ル、ト同時ニ位記貴號ヲ稱スルヲ得ス又
年金恩給ハ此日ヨリ止メラレ勲章ハ其籍
ヲ除却シ且ツ附與シタル章牌ハ返上セシ
ムル者トス
四 本外國ノ勲章ヲ佩用スルノ權

ハ外國政府ヨリ附與シタル勲章會其籍ヲ除
却スルヲ得サルニヨリ但其佩用ヲ禁スル
者トス
五 本兵籍ニ入ルノ權
國法ヲ犯シ國家ヲ害スル者ハ國家ヲ保護
スル任ニ置ク可ラサルヤ必セリ他復タ解
明スルヲ要セス
六 裁判所ニ於テ證人ト為ルノ權但單ニ事
實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス
國法ヲ犯シ憚ルヲナキ者ヲシテ普通ノ良
民ト同シク裁判所ニ於テ民刑兩事件ニ付
證人ト為ル證據ヲ申告セシメシテ危險ノ
甚キ者ト謂ハサルヲ得ス既ニ國法ヲ犯

之憚ルナキニ於テハ何ノ惡言カ憚テ發セ
サラニヤ是レ本項裁判所ニ於テ證人ト為
ルヲ許サ、ル所以ナリ然リト雖モ判官此
者ノ外他ニ證人トナル可キ者ナキ時又ハ
證人アリト雖モ其證人ノ申告ノミニ於テ
充分ナラスト思量スル時ニ際セハ亦唯此
等ノ者ヲミテ其事實ヲ陳述セシムルモ妨
ケナキ者トス若シ此變法ヲ設ケサルニ於
テハ審判上實際不便ナキヲ得サルニ因リ
本項但以下此變法ヲ設ケタル所以ナリ
七 昔後見人ト為ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ
子孫ノ為メニスルハ此限ニ在ラス禁スル
ハ分散者ノ管財人ト為リ又ハ會社及ヒ共

有財産ヲ管理スルノ權

九 學校長及ヒ教師學監ト為ルノ權
以上三項皆同主意ニ出タル者ナリ不良ノ
人ト幼弱者ヲ監護教育スル任ニ置カシム
可カラス又管財人管理人トシテ多數ノ人
ノ財産ヲ委任セシム可カラス又少年ノ品
行ヲ正シクスル所ノ學校長教師學監等ト
為サシム可カラス此レ皆是等ノ任ヲ授ク
可キ目的ノ人ニアラサレハナリ但シ父祖
親ニテ元者ノ子孫ヲ監護教育スルハ他人ト違
ニ其愛情深キヲ以テ或ハ子孫ノ便利ナル
ヲナキニシモアラサレハ其親屬ノ意見ニ
任シ若シ其親屬益アリテ害ナシト認定ス

ル時ハ翻テ一切後見ヲ禁スルヨリ便益アルヲ以テ第七項但以下ノ變法ヲ設ケタル者トス

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別

ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

抑モ公權ナル者ハ國家ヲ保護シ國民ノ名代ト為テ公務ニ關涉シ又世人ノ信用ヲ得テ事ノ有無信偽ヲ證明シ多數ノ人ノ財產ヲ管理シ又一族ノ監護者ト為リ或ハ品行ヲ正シクスル所ノ教導者ト為ル等各世人ノ榮譽トシテ尊崇スル所ノ者ニ非ルハナシ今夫レ重罪ヲ犯ス者ヲシテ此權ヲ行ハシムルニ乎果シテ其任ヲ全フスルヤ否既ニ

世ノ治安ヲ害スル者ニシテ焉ソ能ク此任ヲ全フスルヲ得ニヤ且ツ世人ノ榮譽トシテ尊崇スル所ノ者ヲ此等犯人ヲシテ忌憚ナク行ハシムルニ乎又刑法ヲ設ケ人ヲ懲戒スル所ノ意ニ反スル者ナリ故ニ本條重罪ニ處セラレタル者ハ假令主刑ノ期限ヲ終スル又ハ主刑ノ期滿免除ヲ得ルヲ以テ直チニ公權ヲ行ハシメス但復權ノ法ニ因リ公權ヲ復與スルノ外終身剝奪スル者ト定メタル所以ナリ

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣

告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間

ハ公權ヲ行スルヲ停止ス

前條ハ終身公權ヲ剝奪スト雖モ本條ハ輕
罪ナルヲ以テ但刑期間公權ヲ行フヲ停止
スル者トス刑期中ハ禁錮場ニ在ルヲ以テ
自然公權ヲ行フヲ得サル可シ何故ニ本條
此事ヲ記載スルヤ蓋シ本犯禁錮ニ在リト
雖モ若シ此權ヲ停止セサル時ハ名代人ヲ
出シ公權ヲ行フヲ得ルヲ以テナリ故ニ公
權ヲ停止セラレシ者ハ其刑期間ハ名代人
ヲ出シ公務ニ關涉セシメ及ヒ多數ノ人ノ
財産ヲ管理セシムルヲ得ス且ツ位記貴
號勲章ヲ有スル者モ其刑期間ハ其位記貴
號勲章ニ屬スル待遇ヲ受クルヲ得ス又年
金恩給等モ又押除セラレ、者トス

過失殺傷并ニ失
火ノ罪ハ總テ罰

主論者曰本條公權ヲ停止ストハ第三十一條
ニ記載セタル總テノ公權ヲ停止スルナ
ル可シ同條第二項官吏ト為ルノ權トアル
第三十條以テ考フレハ公權ノ停止ヲ受クル時ハ
官吏ノ其職ヲ免セラレ、又贅言スルニ
及ハサル可シト然ルニ本條ハ公權ヲ剝奪
スルニ非ス但刑期間ノ間暫ク停メ置ク者ト
ス故ニ官職ヲ失フヲ別ニ掲ケ置カサレ
ハ若シ其刑期ヲ終ル時ハ又直チニ元ノ官
職ニ任セサルヲ得サル不便ナキニ非ス因
テ本條現任ノ官職ヲ失ヒト謂フ語ヲ特ニ
加ヘタル者トス
又曰禁錮ノ刑ヲ受クル者モ過失殺傷并ニ

金ノミニ從ヒタキ
意見アリ他日ノ
獻議ニ付セントス

失火ノ罪ノ如キハ一概其官ヲ免スルニ及
ハサル可キト誠ニ其理アリ然ルニ過失殺
傷并ニ失火ノ本條ニ依レハ禁錮ニ處スル
モ又罰金ノミニ處スルモ判官ノ思量ニ任
シタリ故ニ疎虞懈怠ノ大ナル者ハ判官必
ス禁錮ニ處ス可キニ付假令過失殺傷失火
ノ罪ト雖モ其疎虞懈怠ノ大ナル者ハ其官
ヲ免セサルヲ得スト思考シタル者ノ如シ
識者ノ鑒定ヲ仰カントス

主刑ヲ免シ止シ多
監視ニ付シタルハ此

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル
者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間公權ヲ
行フコトヲ停止ス
主刑ヲ免シテ止シタル者亦同シ

監視ハ宣告スヘキニ
似タリ本刑法其明
文ナシ第三十八條ノ
註ニ意見ヲ掲ゲタリ
本刑法中記載シタキ
者ナリ

重罪ノ刑ニ處セバ止シタル者ハ總テ監視ニ
ニ付スル以外輕罪ノ刑ニ處スル者モ皇室
三對スル罪、貨幣并ニ官印、官文書及ヒ私印、私
書ヲ偽造スル罪、官吏財産ニ對スル罪、強竊
盜罪、詐偽取財ノ罪、放火ノ罪ノ如キハ亦
監視ニ付ス可キ者トス此等ノ罪ヲ犯ス者
初日リ輕罪ニ當リ又ハ減輕ニ因リ輕罪ノ
刑ニ處セラレト雖モ皆各其後來ヲ戒メ
且ツ其再犯ヲ豫防セサルヲ得サル者ナリ
又此監視ニ付シタル罪人ヲシテ良民ト等
シク公權ヲ行ハシメン乎實ニ背理ノ甚シ
キ者ト謂ハサルヲ得ス是レ本條監視ニ付
シタル者ハ其期限間公權ヲ停止シタル所

以ナリ
主刑ヲ免シ止タ監視ニ付シタル者トハ死刑并ニ無期徒流刑ニ當ル者ノ期滿免除ヲ得及ヒ内亂ノ豫備ヲ為シ未タ其事ヲ舉ケサル前自首シタル者及ヒ貨幣ヲ偽造變造シ未タ行使セサル前自首シタル者等ヲ謂フ此等犯人其本刑ハ免スト雖モ仍ホ後來ヲ豫防ス可キ者ナレハナリ
監視ニ付スル方法細目ハ別ニ規則ヲ設ク可キヲ以テ今茲ニ之ヲ贅セス

第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ親カラ財産ヲ治ムルコトヲ禁ズ但其財産ハ後見人ヲシ

テ之ヲ管理セシム
罪囚其刑期間ハ獄中ニ在ルヲ以テ親カラ財産ヲ治ムル能ハサルコト復タ明カナリ然リト雖モ法律ヲ以テ明カニ其財産ヲ治ムルコトヲ禁止セサル片ハ已レ手カラ之ヲ治ムル能ハスト雖モ亦他人ニ囑託シ其財産ヲ運用スルヲ得ルヲ以テ終ニ獄内ニ財産ヲ取寄セ又ハ外人ニ賂遺シテ脱獄其他惡事ヲ謀ルノ資ト為スノ患ナキニ非ス是レ本條重罪ニ處セラレタル者ニ特ニ之ヲ禁シタル所以ナリ
其輕罪ニ當ル者ニ治産ヲ禁セサルハ何ソヤ輕罪ハ重罪ニ比スレハ自カラ其檢束薄

後見人の裁判所ヨ
リ任スト謂フト實
際裁判所ニ此等
ノ手數ヲ為スヲ得ル
ヤ否此等ノ事ハ實際
施行ノ上ニ非サレハ預
シノ斷言ニ難シト雖
モ此本條編纂ノ時
ノ注意ナリシヲ以テ暫
ク茲ニ之ヲ記載スルノ
ミ

ク且ツ刑期ノ短キヲ以テ自然脱獄其他惡
事ヲ謀ルノ患ナク且ツ反テ刑ノ酷ニ過ル
ヲ以テノ故ナリ

重罪ニ處セラレタル者若シ財産ヲ所有ス
ル時ハ既ニ親カラ之ヲ治ムルヲ禁シタル
ヲ以テ裁判所ヨリ後見人ヲ任シ之ヲ管理
セシムル者トス其後見人ヲ任スル法方ノ
細目ニ至テハ此刑法其繁ヲ省キ他法ニ讓
ル所ナリ因テ茲ニ之ヲ贅セス

第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル片
ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免ス
ルヲ得
本刑法第二十一條ニ於テ無期流刑ノ囚五

宜年有期流刑ノ囚五年ヲ經過シ能ク獄則ヲ
守リ悔改ノ狀ヲ表スル者ハ幽閉ヲ免シ島
地ニ於テ地ヲ限り居住セシムル寬典ノ法
ヲ掲ケタリ既ニ地ヲ限り居住スル寬典ノ
處分ヲ受クル時ハ又生業ヲ營ム法ヲ與ヘ
スニハアル可カラス是レ本條幽閉ヲ免セ
ラレタル者ニ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スル
ヲ掲ケタル所以ナリ
本條治産ノ禁ヲ免ストモ時ト場所ト身分
トニヨリ一樣ニ免ス可キ者ニ非サレハ行
政官ノ見込ヲ以テ其幾分ヲ免ストニ定メ
タル者トス

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別

ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等
シキ時間監視ニ付ス

世ノ害ヲ為ス最モ重キ者ハ主刑ノ終ルヲ
以テ直チニ常人視ス可カラス仍ホ其後來
ヲ戒メ且ツ再犯ヲ豫防セサルヲ得サル者
ナリ故ニ重罪ニ處セラレタル者ハ主刑ノ
終ル後各本刑短期ノ三分ノ一ニ等シキ時
間監視ニ付スルニ定メタル所以ナリ
本刑短期ノ三分一トアルニ於テハ有期徒
流刑ハ四年、重懲役重禁獄ハ三年、輕懲役輕
禁獄ハ二年ナリトス

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ
宣告ス但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付ス

九ノヲ得ス

重罪ニ當ル者ハ其何罪タルヲ問ハス一切
監視ニ付スルヲ以テ其宣告ヲ用ヒス自カ
ラ附加スル者ト定メタリ輕罪ハ之ニ反シ
テ第三十三條ノ解ニ掲ケタル如ク總テノ
輕罪中僅カニ數種ノ罪ニ過キサルヲ以テ
夫々之ヲ宣告スルニ定メタル所以ナリ
輕罪ニ附加スル監視ハ夫々宣告シテ之ヲ
附加スト雖モ各本條ニ於テ特ニ附加ス可
キヲ記載シタル種類ノ外亦他ノ罪ニハ
附加ス可カラサルモノトス
主刑ヲ免止シタ監視ニ付シタル時此監視
ハ宣告スルヤ否本刑法中其明文ナシト雖

モ監視ハ固ト主刑ニ附加スル者ナルヲ以テ既ニ其主刑ヲ免シタル者ハ亦別ニ宣告ヲ為スニ非サレハ直チニ此監視ニ付ス可カラスト思惟セリ

第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス

本條亦大ニ後來ヲ豫防ス可キ罪犯ニ係ル故ニ其主刑ハ期滿免除ヲ得ルト雖モ仍ホ五年ノ監視ニ付スル者トス此五年ノ期限ハ其權衡ヲ第三十七條ニ取リタル者ナリ

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕

ニ就キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

監視ハ總テ主刑ノ終ル後執行スル者ナルヲ以テ其期ヲ計算スルハ主刑ノ終ル日ヨリ初メサルヲ得ス然リト雖モ主刑ノ期滿

免除ヲ得タル者ハ其主刑ノ執行ヲ遁レタルニヨリ免除ヲ得タル日ヨリ直チニ監視

ヲ執行スルヲ得ス故ニ主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ捕ニ就キタル日ヨリ其期ヲ計

算シ又主刑ヲ免シタル者モ其主刑ナキヲ以テ特ニ監視ニ付スル裁判宣告ヲ為サハ

ルヲ得サルヲ以テ此裁判確定ノ日ヨリ其

期ヲ計算スル等本條ハ各其起算ノ法ヲ示シタル者ナリ

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情状ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルヲ得

監視ノ刑タルヤ其後來ヲ戒メ且ツ再犯ヲ豫防スルニ於テハ必要ナル者ト雖モ總テ刑餘ノ人ハ世人ノ之ヲ忌嫌スル者ナリ且又監視ハ其動作進退ヲ檢束スルヲ以テ自ラ生業ヲ營ムニ於テ又妨碍ナシトセス故ニ犯人ノ情状ニ因リ順良ニシテ後來再犯ノ患ナキ者ハ行政官ノ見込ヲ以テ假リニ其監視ヲ免スルヲ得セシム然リトモ

若シ其犯人更ニ放蕩ノ行ヒアルハ又其赦免ヲ取消スルヲ得是レ本條假リニ免スルヲ得セシムル所以ナリ

第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ納完セサル時ハ第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス本條ノ意ハ既ニ第二十七條ニ於テ之ヲ解明セリ其輕禁錮ニ換ヘタル日數ヲ主刑滿限ノ後執行スルハ其主刑執行中親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納ムルモ計リ難ク且ツ主刑ハ專ラ定役アルヲ以テ先ツ執行セシムル所以ナリ

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ

官ニ没收ス但法律規則ニ於テ別ニ没收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一 法律ニ於テ禁制シタル物件

二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

三 犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ没收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ没收スルヲ得ス

法律ニ於テ禁制シタル物件トハ世ノ風俗ヲ敗壞シ治安ヲ妨害スル物件ニ係ル既ニ此物件ハ自ラ風俗ヲ敗壞シ治安ヲ妨害ス

ル性質ヲ備フル物以テ世間ニ之ヲ存在セシム可カラサル者ナリ即チ禁制シタル武器偽造ノ貨幣阿片烟并ニ猥褻ノ冊子器具等ノ如シ何人ノ所有スルヲ問ハス之ヲ没收スル所以ナリ

犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ人ヲ殺傷シタル兇器盜罪賭博ノ用ニ供シタル器具及ヒ偽造ノ罪ヲ犯スニ用ヒタル器械其他一切ノ罪ヲ犯スニ便ヲ得ル為メ用ヒタル物件ヲ謂フ此等ノ物件ハ既ニ犯罪ヲ助ケタルヲ以テ皆之ヲ没收ス可キ者ト雖モ固ト治安ヲ妨害スル性質ヲ備フル物件ニ非レハ犯人ノ所有ニ係ルノ外之ヲ没收スル

ナシ

犯罪ニ因テ得タル物件トハ盜取騙取シタル
贓物偽造ノ品物ヲ以テ交換シタル正
品物等ノ如シ若シ其盜取騙取セラレシ者知
レサル時ハ又之ヲ沒收スト雖モ原來此等
ノ物品ハ皆其盜取騙取セラレシ者ニ還付
ス可キ者トス故ニ犯罪ニ因テ得タル物件
ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得
スト定メタル所以ナリ
右三種ノ物件ヲ沒收スルノ外賣藥規則造
酒規則銃獵規則等ニ違背スル者ハ各其規
則ニ從テ沒收ス可キ者トス
犯罪ニ用ヒタル物件ハ之ヲ沒收スト雖モ

其人ヲ毆打シタル烟管監禁シタル家屋遺
棄シタル土地陷溺シタル池沼等ノ如ク一
概沒收ス可カラサル者アル可シ又犯罪ニ
因テ得タル物件ハ所有主アレハ之ヲ沒收
セスト為スト雖モ賄賂ヲ受ケ罪ヲ犯シタ
ル時其賄賂ノ如キハ所有主アリト雖モ又
之ヲ沒收セサルヲ得サル可シ又法律ニ於
テ禁制シタル物件ト雖モ偽造貨幣ノ既ニ
他人ニ轉輾シテ真貨ト同シク通用スル所
ノ者ノ如キハ一概沒收ス可カラサルニ似
タリ右等小區別ノ一ハ他日ノ考案ニ附セ
ントス

第四節 徵償處分

第四十五條

刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

本條ノ裁判費用トハ犯人自身ヲ保護スル為メ證人評價人鑑定人醫師化學家等ヲ使用シタル償ヲ云フ抑モ犯罪ヲ審判スルニ該リ證人等ヲ使用スルハ公平至當ノ判断ヲ要スル為メ之ヲ使用スルヲ以テ或ハ證人等ノ義務ト為ス可キニ似タリト雖モ固ト此ノ犯罪在テ斯ノ證人等ヲ使用スルニヨリ又之ヲ其證人等ノ義務ト為ス可キ得ス必ス之ニ相當ノ償ヲ為サ、ルヲ得ス且又證人等ノ費用ヲ犯人ニ負擔セシメス政

第四十六條

府ニ於テ總テ之ヲ償フ者トスルハ犯人漫リニ僥免ヲ規圖シ無益ノ證人等ヲ召集シ訟廷ノ煩雜ヲ生スルノミナラス大ニ政府ノ事務ヲ妨碍スルニ至ラン是レ犯人ニ此ノ費用ヲ科スル所以ナリ然リト雖モ又一ノ注意ヲ要スルコトアリ例ヘハ原告ノ差錯ヨリ輕微ノ犯罪ヲ重大ノ犯罪ト誤認シ鄭重ノ式ヲ施スニ至テハ犯人亦自身ヲ保護スル為メ鄭重ノ手數ヲ為サ、ルヲ得サル可シ若シ然ル片ハ其費用モ莫大ニ至ルコトアラシキ者ニ其全部ヲ科セントスルカ條理ニ適スル者ニ非ス又犯人貧困ニシテ之ヲ償フ能ハサル者ニ其全部ヲ科スルモ亦

憫然ナリト云フ可シ是等ノ場合ニ於テハ
判官其情状ヲ審査シ科額ヲ減少シテ止タ
其幾分ヲ科セサルヲ得サルトアル可シ但
シ其費用ノ定額ニ至テハ他法ニ讓ルニ非
レハ此刑法ノ盡ス所ニ非ス因テ其費用ノ
額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ムト掲ケタル
所以ナリ

抑モ裁判費用ヲ犯人ニ科スルト英ニ贓物
ヲ還給シ損害ヲ賠償セシムルトハ刑法ニ
掲ケス他法ニ讓ルヲ可トスヘキニ似タリ
蓋シ此等ノトハ皆犯罪ニ續キテ生スル者
ナルヲ以テ刑法ニ其綱領ヲ掲ケ置クヲ可
ト見認メタル者ナリ可シ

第四十六條

犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラ

ルト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給
損害ノ賠償ヲ免カルト得ヌ

舊刑法贓物ヲ追還シ棄毀シタル器物ヲ追
償シ過失殺傷ノ醫藥料埋葬金并ニ毆打シ
テ殺傷シタル養贍埋葬金ヲ追給スルノ外
他ノ損害ヲ賠償セシムル法ナシ抑モ犯罪
ノ為メ損害ヲ受ケタル者ハ何ノ損害タル
ヲ問ハス其害タルニ於テハ等シク一ナリ
是レ本條他ノ損害ヲ受ケタル者モ贓物ノ
還給ヲ得ル等ト均シク犯人ノ刑ニ處セラ
ルト放免セラレト別タス要償ヲ得
ルト掲ケタル所以ナリ其放免セラレハ

者ニ仍ホ此義務アルハ何ソヤ抑損害ヲ賠償セシムルハ固ト人ヲ刑スル義ニアラス止夕其害ヲ舊ニ復セシムルノ義ナリ故ニ罪ヲ犯ス時知覺精神ヲ喪失シタル者モ其罪ハ論セスト雖モ仍ホ其損害ヲ賠償セシメ又赦ニ因テ其罪ヲ免セラレハ者モ人ニ加ヘタル損害ハ賠償セシムル者トス

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

本條數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシムトハ共犯中ノ一人又ハ數人ニ於テ裁判費

第四十八條 用贓物并ニ損害ト總額ヲ還償セシムルヲ謂フ其共犯人等各自ニ出ス可キ數ヲ定メ一括シテ總額ヲ為シ還償スルモ敢テ妨ケナシト雖モ抑モ此還償ハ刑ト異ナリ刑ハ共犯人各々其已レニ科セラレタル刑ニ服セサルヲ得スト雖モ還償ハ共犯中止夕一人ニテ之ヲ為スモ其總額ニ滿ル時ハ又他ノ共犯人ニ追及スルヲナキ者トス

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ所有主ニ還付ス

刑ヲ宣告スルハ刑事裁判所ニ於テシ裁判
費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ民事裁判所
ニ於テ審判スルヲ本則トス然リト雖モ固
ト是レ此等ノ請求ハ刑事ニ附帶シタル者
ナルヲ以テ本條刑事裁判所ニ於テ之ヲ審
判スルヲ得セシムルヲ又官私ノ便ヲ圖リ
タル者ナリ

又刑事民事兩裁判所ヲ論セズ請求ナクシ
テ之ヲ還償セシムルヲ得スト雖モ若シ
犯人贓物ヲ所持スル時ハ其請求ヲ待タス
直チニ之ヲ還付セシム是レ被害者ノ便利
ヲ圖リタル者ナリ

第五節 刑期計算

本條前後二項ノ主
意甚ク及シタル者
ニシテ到底合ハス可
カラサル者ナリ他日ノ
再議ニ付セントス

第四十九條 刑期ヲ計算スルハ一日ト稱スル
ハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日
ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ
受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入放
免ノ日ハ刑期ニ算入セス

本條刑期ヲ計算スル法ヲ示シタル者ナリ
其一月ト稱スル者ヲ三十日ト定メタルハ
月ニ二十八日三十日三十一日ノ不同アル
ヲ以テ其中ヲ執リタル者ナリ又一年以上
ノ刑ヲ計算スルニ曆ニ從フハ計算ノ便ヲ
圖リタル者ナリ故ニ一年ノ刑ニ處セラレ
タル者其受刑ノ初日本年一月一日ニアレ
ハ來年一月一日ヲ以テ放免ノ日トス

第二項ハ例ヘハ本月一日十日ノ刑ニ處セラレタル片ハ斯ノ一日ノ何時ニ放テ其宣告ヲ受ケタルヲ論セス總テ一日ト算シ十日ヲ以テ放免ノ日ト為スノ意ナリ若シ此受刑ノ初日ヲ一日ト稱スル刑ノ計算ノ如ク總テノ刑期ニ通シ初メ宣告ヲ受ケシ時ヨリ其時間ヲ乘シテ計算セントスル乎其繁雜ニ堪ヘサル可シ是レ本條受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入スト定メタル所以ナリ既ニ受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入スト定ムル時ハ又放免ノ日ハ刑期ニ算入セスト定メサルヲ得ス何トナレハ若シ放免ノ日ヲ刑期ニ算入スル片

ハ受刑ノ初日ハ既ニ時間ヲ論セス一日ニ算入スルヲ以テ其十日ノ刑ヲ受ケシ者ハ毎ツモ十日ニ至ラスシテ放免ヲ得ントス又二日ノ刑ニ處セラレシ者ノ如キモ一日ノ刑期ト殆ント同シカラントスルヲ以テナリ是レ放免ノ日ハ刑期ニ算入セスト定メタル所以ナリ止タ一日ノ刑ニ處セラレシ者ハ時間ヲ計テ放免スルニ非レハ外ニ此刑期計算ノ道ナケレハナリ
第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非レハ之ヲ執行スルヲ得ス
裁判確定トハ何ソヤ其上告期限ノ終リタル者ヲ謂フ若シ限内上告シテ前判ノ破毀

司法省

ヲ得タル片ハ其前判ニ受ケタル刑ハ其罪
ニ當ラサルヲ以テ未タ刑ノ宣告ヲ受ケサ
ルニ同シ故ニ此ノ上告限内ハ何人モ上告
ヲ為シ前判ノ破毀ヲ求ムルヲ得ルヲ以テ
此ノ期限ノ終ル後ニ非レハ其刑ヲ執行ス
ルヲ得サル者トス若シ上告シテ破毀ヲ
得サル片ハ其上告審判ノ日ヲ以テ確定ト
ス

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス
若シ上告ヲ為シタル者ハ左ノ例ニ從フ
一 犯人自ラ上告シテ破毀ヲ得タル者ハ前
判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上告不當ナ
ル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス

二 中檢事ノ上告ニ係ル者ハ其破毀ヲ得ルト
否トヲ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス
三 上告中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者
ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルヲ得ス

本條ハ舊來慣用ノ法ニ從ヒ刑期起算ノ法
ヲ示シタル者ナリ故ニ犯人自カラ上告シ
テ前判ノ破毀ヲ得タル片ハ前判ノ宣告其
法ニ違フタルヲ以テ再ヒ審判ヲ受ケ他ノ
刑ニ問擬セララルト雖モ初メヨリ法ヲ弄
スル意ナク止夕前判ノ法ニ違フタルヲ伸
雪スル者ト為シ前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ
起算スル者トス若シ其上告破毀ヲ得ス即

テ前判ノ法ニ適シタルハ本犯自カラ法
ヲ弄スルニ當ルヲ以テ假令其身ハ獄舎ニ
拘置セラレ、ト雖モ後判即テ其上告不當
ノ判決ヲ受ケタル日ヨリ起算スル者トス
之ニ反シテ檢事ノ上告ニ係ル者ハ本犯既
ニ前判宣告ノ刑ニ甘服シタルヲ以テ其上
告ノ破毀ヲ得ルト否トニ論ナク前判宣告
ノ日ヨリ起算スル者トス右ノ如ク未タ其
刑ノ確定セス上告期限中ニ在ル者ヲ以テ
刑期ニ算入スルノ意ハ上告中ハ其犯人ヲ
獄舎ニ拘置スルヲ以テ既ニ其刑ヲ執行シ
タルト同シク見做セハナリ故ニ犯人上告
ニ中保釋并ニ責付ヲ得タル者ハ獄舎ニ拘置

セサルヲ以テ其日數ハ刑期ニ算入スル
ヲ得ス此ノ場合ニ臨メハ犯人ヲ獄舎ニ入
レタル日ヨリ其期ヲ起算スル者トス
或ル論者ハ刑期ハ總テ確定ノ日ヨリ起算
スルトニ定ム可シ否ラスシテ本條ノ如ク
定ムル件ハ左ノ如キ不便ヲ生セシ例ハ
犯人初判ノ宣告ニ服セス大審院ニ上告シ
其初判ノ刑ノ破毀ヲ得タリ因リ大審院更
ニ他ノ裁判所ニ移シテ此ノ罪ヲ審判セシ
メシニ此ノ審判ニ於テハ初判ノ刑ニ異ナ
ラサル宣告ヲ為セリ因テ再ヒ大審院ニ上
告セシニ今回ハ大審院初メノ判決ト違ヒ
其上告不當ニシテ審判ノ法ニ適シタル判

決ヲ為シタリ然ル件ハ何ノ日ヲ以テ此人
刑期ヲ起算セントスル乎初度ノ上告ニ破
毀ヲ得タルヲ以テ初判宣告ノ日ヨリ起算
セントスル乎再度ノ上告ハ不當トシテ破
毀ヲ得サリシ一度ハ破毀ヲ得一度ハ破毀
ヲ得サルヲ以テ起算ノ日ヲ定ムルヲ殆ニ
ト困難ナル可シ此等ノ不便アルヲ以テ總
テ刑期ハ確定シタル日ヨリ起算スルヲニ
定ム可シト説ク者アリ然リト雖モ實際此
等ノ事ノ多クアル者ニ非ス止タ稀ニアル
トナル可シ抑モ犯人ハ早ク其刑ヲ終ラシ
トスル者ナリ若シ檢事ノ上告ヲ為シタル
件ハ如何既ニ初判ノ刑ニ甘服シタル犯人

ノ迷惑實ニ甚シカレ可シ此ノ例ノ如キ稀
有ノ事ヲ以テ初判ノ刑ニ甘服シタル總テ
犯人ノ獄舎ニ拘置シタル日數ヲ刑期ニ
算入セサルハ不公平ト謂ハサルヲ得ス是
レ本條論者ノ異議アルニ拘ハラヌ犯人ノ
刑期ヲ早ク過サシメントスル主義英ニ舊
來ノ慣用ニ從ヒ設立シタル所ノ者ナリ
第五十二條 刑期限内逃走ニ再ヒ捕ニ就キタ
ル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ
計算ス

舊法ハ刑期限内ニ在テ逃走スル者ハ總テ
就新ニ役ヲ科セラレ逃走前經過シタル日
數ハ刑期ニ算入スルヲ許サハリシ然ルニ

本條ノ如ク逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ刑期ニ計算スルハ舊法ニ比スレハ頗ル寛恕ヲ與ヘタル者ナリ

第六節 假出獄

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悔改ノ状アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假リニ出獄ヲ許スヲ得
無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同
死刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス
假出獄ノ法ハ各國刑法多ク設ケサレ所ノ

者ナリ犯人ニ此恩典ヲ與フルハ大ニ國家ノ利益タルヲ以テ近來往々此法ヲ設置スルニ至レリ抑モ此假出獄ヲ許スニ三ツノ理由アリ第一犯人刑期内ニ在ル者モ假リニ獄ヲ出シ外人ニ接近セシメ生業ヲ營マシムル片ハ總テ犯人ヲシテ入獄ノ日ヨリ順良ノ心ヲ起シ其善行ヲ勸ムルニ足ル者トス加之此ノ順良ノ心ヲ起シ悔改ノ状ヲ表スル者ヲ假リニ出獄セシムル片ハ自然他ノ犯人ヲシテ悔改ノ情ヲ起サシムルニ足ル者ナリ第二總テ犯人ハ長ク獄中ニ起居スル片ハ他日放免ノ時直クニ生業ニ就クノ難キ者トス故ニ悔改ノ状ヲ表スル

者ハ刑期内ニ在ルモ假リニ獄ヲ出シ外人
ニ接近セシメ他日生業ヲ營ムト難カラサ
ラシムル為メナリ第三犯人ヲ長キ時間獄
場ニ置ク片ハ徒ニ身体ノ萎衰ヲ招クノミ
ナラス大抵犯人ヲ懲戒スル期限ニハ其定
度アル者ニシテ其期限ノ長キニ過ル片ハ
犯人自ラ人間ニ齡セントスルノ念ヲ絶テ
順良ノ心ヲ起スニ至ラス且又外人ニ於テ
モ期限ノ長キニ從ヒ其犯人ヲ厭惡スル
愈々厚キ者トス隨テ犯人ヲシテ益々自棄
ノ心ヲ長セシメ終ニ犯人ヲ懲戒スル所ノ
意ニ反スル果ヲ結フニ至ル者アリ是レ假
出獄ヲ許ス第三ノ理由トス

假出獄ヲ許スノ理由ハ右ノ如シト雖モ其
能ク獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル者ニシテ
又刑期ノ多分ヲ經過シタル者ニ非レハ初
メヨリ何人モ假出獄ヲ許サ、ル者ナリ何
トナレハ悔改ノ狀ナキ者ハ假出獄ノ恩典
ヲ與フル理由ニ反シ且ツ未タ其刑期ノ幾
分モ過キサル内出獄ヲ許ス片ハ亦世人ノ
戒メヲ為スニ足ラサレハナリ
假出獄ヲ許ス法方細目ニ至テハ別ニ規則
ヲ設クルヲ以テ今茲ニ之ヲ贅セス
無期ノ刑ニ處セラレタル者ニ此恩典ヲ與
フルハ其体軀ヲ健全ナラシメ仍ホ世ニ望
ミヲ絶タシメサル為メナリ

流刑ニ處セラレタル囚徒ハ幽閉ヲ免スル
法アルヲ以テ假出獄ノ法ヲ用ヒサル者ト
ス

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サルハト

雖モ仍ホ島地ニ居住セシム

徒刑ニ處セラレタル囚徒ハ假出獄ヲ許ス
ト雖モ島地ニ發遣スルヲ以テ流刑ニ處セ
ラレシ者ト同シク其刑期間ハ島地ニ居住
セシムル者トス

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ
處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得
但本刑期限内ハ特別ニ定メタル監視ニ付ス
假出獄ヲ許サレタル者ハ外人ニ接近シ生

業ヲ營ムヲ以テ治産ノ禁モ亦其幾分ハ免
セサルヲ得ス止タ未タ其刑期ヲ終リタル
者ニ非レハ普通ノ監視ニ嚴ナル所ノ特別
ノ監視ニ付スル者トス

第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタ
ル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ
刑期ニ算入スルヲ得ス

本條ハ假出獄ノ許可ヲ停止セララル、場合
ヲ云フ其再ヒ重罪輕罪ヲ犯ス者ハ假出獄
ヲ許シタル理由ニ背反シタル所行ヲ為ス
ヲ以テ出獄中ニ經過シタル日數ハ刑期ニ
算入セサル者トス

本條一旦假出獄ヲ許シタル者ハ重罪輕罪

此注解ハ他日ノ獻
議ニ附スヘキ者ト
雖モ暫ク茲ニ附記
シテ遺忘ニ備フルニ

ヲ犯スニ非レハ他ニ宜シカラサル行状ア
ルモ又其許可ヲ停止ス可カラサル者トス
余ヲ以テ之ヲ見レハ重罪輕罪ヲ犯スノ外
他ニ宜シカラサル所状アル者ハ其行状ノ
再ヒ罪ヲ犯スニ至ルモ計ラレサルニ於テ
ハ又此許可ヲ停止スルコト可ナラント思惟
セリ獨乙刑法ニ於テハ不行状ノ故ヲ以テ
出獄ヲ停止セリ若シ他ノ不行状ノ故ヲ以
テ出獄ヲ停止スルコト本條ヲ改正スルヲ
得ハ既ニ經過シタル日數ハ重罪輕罪ヲ犯シ
タル者ト同シク刑期ニ算入セサルヲ可ト
スル乎否ナ悛改ノ状ヲ表シ再ヒ罪ヲ犯サ
、**ハ**ル故ヲ以テ假リニ出獄ヲ許シタルニ

再ヒ罪ヲ犯スニ於テハ既ニ自カラ此恩典
ヲ放棄シタル者ナリ故ニ再ヒ罪ヲ犯ス者
ハ出獄中ニ經過シタル日數ハ刑期ニ算入
セスト雖モ其未タ罪ヲ犯スニ至ラサル者
ハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルヲ可ナ
ラントス右本條外ノ事ニ係ルト雖モ此ノ
法ヲ施行スルニ望メハ現ニ罪ヲ犯シタル
者ニ限ラス其罪ヲ犯スニ至ルモ計リ難キ
所行ヲ為ス者ノ如キハ此ノ出獄ヲ停止ス
ルヲ便利ナラントス愚按ヲ存シ議法者ノ
参考ニ供スルノミ

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタ
ル者ハ假出獄ヲ許サス

本條ハ更ニ假出獄ヲ許ス可キ理由ナキ者ナリ止タ第五十三條ノ變例ヲ掲ケタル者トス即チ悔改ノ狀アル者モ刑期限内再ヒ罪ヲ犯ス者ハ假出獄ノ恩典ヲ與ヘサル者トス

第七節 期滿免除

第五十八條 刑ノ執行ヲ遁レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得舊刑法舊惡減免ノ法アリ舊惡減免ノ法ハ罪ヲ犯シ未タ發覺セスシテ若干年間ヲ經タル者ヲ減免スル者ナリ已ニ其罪發覺シ刑ノ宣告ヲ受クルノ後其刑ノ執行ヲ遁レテ若干年間ヲ經シ者ヲ不問ニ置クハ又本

邦創メテ設クル所ノ法ナリ本條期滿免除ト云フハ已ニ刑ノ宣告ヲ受ケ其刑ノ執行ヲ遁シ若干年間ヲ經タル者ヲ不問ニ置クト云フ、罪ヲ犯シ已ニ刑ノ宣告ヲ受ケシ者ハ假令何年間其刑ノ執行ヲ遁ル、ト雖モ決シテ不問ニ置クノ理ナシ是レ犯人ノ脱逃ヲ懲息スル者ナリ是レ犯罪ヲ幫助スル者ナリ是レ犯人ヲ懲戒スル權ヲ奪將スル者ナリ等喋々論シテ止マサル者アリト雖モ抑モ期滿免除ノ法タル左ノ理由ニ因テ設置シタル者ニシテ頗ル正理人情ニ適合スル者トス第一、刑ノ執行ヲ遁ル、者二十年乃至三十年ノ久シキニ及フ片ハ人生

ノ消長思想ノ交替アルノミナラス又世態ノ變遷ナキヲ保ス可カラス遂ニ世人ノ犯者アリシヲ忘失スルニ至ル者ナリ第二罪人ノ兇惡ナル當時世人ヲシテ恐怖セシムト雖モ星霜ヲ経ルノ久シキニ隨テ恐怖ノ念慮消滅スルモノナリ然ルニ尚ホ之ヲ刑セント欲スルヤ翻テ憫憐ノ情ヲ起シ其残酷ヲ咎ムルニ至ル者ナリ第三犯人逃避中ハ其發覺ヲ恐レ小心謹行千辛萬苦其刑ニ就キタルニ劣ラサル苦勞アル可シ抑モ罪人ニ刑ヲ科スルハ其後來ヲ懲戒シ再ヒ罪ヲ犯サシメサルヲ要スルモノナリ故ニ其逃避中毫モ惡事ヲ為サ、ルニ於テハ已ニ

良民ニ化シ其刑ノ効ヲ奏シタル者ト見做サ、ルヲ得ス右等ノ理由アルヲ以テ本刑法期滿免除ノ法ヲ設ケタル所以ナリ

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得

- 一 死刑ハ三十年
 - 二 無期徒刑ハ二十五年
 - 三 有期徒流刑ハ二十年
 - 四 重懲役重禁獄ハ十五年
 - 五 輕懲役輕禁獄ハ十年
 - 六 禁錮罰金ハ七年
 - 七 拘留科料ハ一年
- 各國刑法ヲ參觀スルニ刑ノ期滿免除ハ大

抵重罪ハ十五年以上三十年以下、輕罪ハ三
年以上十年以下、違警罪ハ一年以上二年以
下ノ間ヲ出テス本條死刑ヲ三十年ト定メ
タルヲ以テ無期徒流刑以下其年限ヲ遞減
シテ輕罪ハ七年違警罪ハ一年ト定メタリ
第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿
免除ヲ得ス

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得
沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ
期滿免除ノ限ニアラス

本條ハ前條ニ稍々異ナル例ヲ掲ケタル者
ナリ剝奪公權ハ第三十一條ニ記載シタル
諸權ヲ終身剝奪スル者ニシテ本犯主刑ノ

期滿免除ヲ得ルノ後竊カニ此諸權ヲ行ハ
ントスル乎同條中二三ノ權ハ竊カニ行フ
ヲ得可キト雖モ總テノ權ハ決シテ行フヲ
得可キ者ニ非ス若シ又此權ヲ行ハサル乎
即チ其刑ニ服シタル者ナリ故ニ此刑ニ於
テハ期滿免除ヲ得サル者トス又監視ハ犯
人主刑ノ終ル後チ仍ホ其再犯ヲ豫防スル
為メ政府ノ視察ヲ加フル者ナレハ主刑ノ
期滿免除ヲ得ルヲ以テ此監視ノ刑ヲ免除
スルヲ得サル者トス既ニ監視ニ付シタル
者ノ期滿免除ヲ得サルハ停止公權ハ監
視ニ付シタル者ハ必ス附加スル所ノ刑ナ
ルヲ以テ亦期滿免除ヲ得サル者トス

附加ノ罰金ノ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得ル
 ハ主刑ニ附加シタル者ナレハナリ
 本刑法沒收ス可キ物件ハ第一、法律ニ於テ
 禁制シタル物件第二、犯罪ノ用ニ供シタル
 物件第三、犯罪ニ因テ得タル物件トス故ニ
 第一、即テ法律ニ於テ禁制シタル物件ハ自
 カラ風俗ヲ敗壞シ治安ヲ妨害スル性質ヲ
 備フルヲ以テ期滿免除ヲ得サル者トス第
 二、第三、ノ物件ニ至テハ違警罪以上死刑ニ
 至ル迄各其犯罪ニ用ヒ及ヒ其犯罪ニ因テ
 得タル物件ナルヲ以テ主刑ノ輕重ニ從ヒ
 其期滿免除ノ期限ヲ異ニス可キニ似タリ
 ト雖モ右ノ如ク定ムル時ハ實際上不便多

ク且ツ但タ物件ノミニ係ルヲ以テ輕罪ノ
 次キ即チ五年ヲ以テ期滿免除ノ限ト定メ
 タル者トス

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル
 日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル
 時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ闕席裁判ニ係ル
 時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

本條ハ期滿免除ヲ起算スル例ヲ示シタル
 者ナリ裁判確定ノ後其刑ノ執行ヲ遁レタ
 ル者ハ其執行ヲ遁レタル日ヨリ起算シ若
 シ逃走シテ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル者ハ
 又其逃走ノ日ヨリ起算スル者トス其闕席
 裁判ニ係ル者ハ本犯訟庭ニ出頭セス刑ノ

宣告ヲ受ケタルヲ以テ若シ出頭シテ不服
ヲ訴フル時ハ常ニ改正スルヲ得可キニヨ
リ宣告ノ日ヨリ起算スル者トス

第六十二條 刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮
捕ヲ命シタル時ハ最終ノ捕縛狀ヲ出シタル
日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

本條ハ前條ノ變例ヲ掲ケタル者ナリ刑ノ
執行ヲ遁レタル者逮捕ヲ受ケスト雖モ其
犯人ニ對シ捕縛狀ヲ出シタル時ハ其捕縛
狀ヲ出シタル終リノ日ヨリ期滿免除ヲ期
算スル者トス

第八節 復権

第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑

ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情
狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルヲ得
主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタ
ル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同ニ
復権ヲ施行スル方法細目ハ別ニ規則ヲ設
ケタルヲ以テ本刑法ニ於テハ止タ犯人ニ公
權ヲ復與スル大綱ヲ掲ケタリ抑モ剝奪公
權ハ終身ノ刑ナリ且ツ期滿免除ヲ得サル
者トス若シ犯人主刑ノ終ル後其良心ニ復
シ順良方正ニシテ常人ニ異ナラサル行ヒ
アル時ハ此ノ法ヲ設ケテ以テ其公權ヲ復
與セサルヲ得サル者トス是レ人ヲシテ善
行ニ導ク所ノ者ナリ若シ此ノ法ヲ設ケテ

其公權ヲ復與セサル片ハ此ノ刑ニ處セラ
レタル犯人其良心ヲ起スノ道ヲ塞クノミ
ナラス既ニ頃良方正ノ行ヒアル者ハ實ニ
愾然ニ堪ヘサル者ナリ然リト雖モ犯人主
刑ノ終リタル日并ニ期滿免除ヲ得タル日
直チニ公權ヲ復與スル片ハ還タ此ノ刑ヲ
附加シタル所ノ効ヲ滅却スルヲ以テ其刑
ニ服スルノ後五年ヲ經過シタル者ニ非レ
ハ此ノ恩典ヲ與ヘサル者トス

本條公權ヲ復スト謂ヘハ字面上ニ就テ之
ヲ觀ル片ハ既ニ剝奪シタル所ノ年金恩給
等モ復與セサルヲ得サルヲ以テ特ニ將來
ノ二字ヲ加ヘタル者ナリ

第六十四條

大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直

チニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ
赦狀中記載スルニ非レハ復權ヲ得ス
赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シ
タル者トス

赦ハ固ト君主ノ慈心并ニ政ヲ為スノ權略
ニ出ル者ナリ本邦從來ノ制大赦ハ廣ク天
下ノ罪囚ヲ赦免シ特赦ハ特ニ一人又ハ數
人ノ罪ヲ赦スノ義ナリ然ルニ本條大赦
ト謂フハ佛國ノ法ニ擬シ一種ノ罪犯ニ對
シ刑名宣告ノ前後ヲ論トス告訴ノ權逮捕
ノ權刑罰執行ノ權等悉ク之ヲ消滅セシム
ルノ義特赦ハ一箇ノ犯人ニ對シ刑名宣告

ノ後刑ノ執行ノミ其全部又ハ一部ヲ赦免スルノ義ト定メタリ故ニ大赦ハ全ク其罪ヲ免スヲ以テ公権モ亦直チニ復與シ本犯再ヒ罪ヲ犯スモ犯數ニ計ヘサル者トス特赦ハ刑ノ一部又ハ全部ヲ免ス者ナルヲ以テ其赦ヲ以テ特ニ公権ヲ復與シタル者ニ非レハ其公権ハ復與セサル者トス
犯罪既ニ赦典ヲ得可キ者ハ其再犯ヲ豫防スルニ及ハサル者トス故ニ赦ニ因テ復権ヲ得タル者ハ其監視ノ附加刑モ自カラ免シタル者トス

第六十五條 復権ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラス

復権ハ固ト赦典ニ類スル者ナルヲ以テ本條勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラスト定メタル所以ナリ

第三章 加減例

第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス
本條以下刑ノ加重減輕ノ例ヲ掲ケタル者ナリ其要六ツアリ重罪ヲ加等シテ死ニ入ルヲ得ス、輕罪ヲ加等シテ重罪ニ入ルヲ得ス、違警罪ヲ加等シテ輕罪ニ入ルヲ得ス、國事ニ關スル犯罪ト通常ノ犯罪ト加

減ノ順序ヲ異ニス、禁錮罰金ハ各一ノ刑名
ナルヲ以テ重罪ト其加減ノ法ヲ同シクセ
ス、各種ノ犯罪ヲ減輕シテ拘留ノ一日科料
ノ五錢以下ニ降ス、一ヲ得サル一等トス、此
ノ條ハ特ニ處刑ノ各本條ニ於テ何等ヲ加
ヘ何等ヲ減スト記載シアル時ハ後ノ數條
即チ第六十七條以下ニ照シテ加重減輕ス
可シト謂フ義ヲ掲ケタル者トス以下各條
ニ就キ解明セントス

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加
減ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重懲役

五 輕懲役

本條ハ通常犯罪加減ノ法ヲ示シタル者ナ
リ故ニ本刑重懲役ニ該ル者一等若クハ二
等ヲ加フレハ第七條ニ照セハ流刑ニ處ス
可キ頃ニ當ルト雖モ流刑ニ從ハス徒刑ニ
處シ又二等ヲ減スレハ重禁獄ニ處ス可キ
頃ニ當ルト雖モ禁獄ニ從ハス二年以上五
年以下ノ重禁錮ニ處スル者トス

第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等
級ニ照シテ加減ス

- 一 死刑

二 無期流刑

三 有期流刑

四 重禁獄

五 輕禁獄

本條ハ國事ニ關スル犯罪ノ加減法ヲ示シ
タル者ナリ故ニ流刑ヲ減スレハ禁獄ニ從
ヒ又禁獄ニ加等スレハ流刑ニ從フ者トス

第六十九條

輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ
二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ
一等ト為ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五
年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト為ス
處刑ノ各本條ニ記載シタル輕罪ノ刑中其

最モ重キ者ハ二年以上五年以下ノ禁錮ト
ス故ニ輕懲役輕禁獄ニ該ル者一等ヲ減ス
レハ二年以上五年以下ノ禁錮ニ處スルヲ
其順序トス

第七十條

禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ
各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ
減スルヲ以テ一等ト為シ其加重ス可キ時ハ
亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト為ス
輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁
錮ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得

禁錮罰金ハ各一ノ刑名ナルヲ以テ若シ重
罪ノ刑ノ如ク加減ノ法ヲ設クハ片ハ一等
ヲ加フレハ直チニ重罪ニ入レサルヲ得ス

又一等ヲ減スレハ直チニ違警罪ニ降サ、
ルヲ得ス一等ヲ加ヘ直チニ重罪ニ入ラス
一等ヲ減シ直チニ違警罪ニ降ラストモ固
ト此ノ刑ハ長期短期多數寡數ノ間アル刑
ナルヲ以テ若シ一等ヲ加ヘ長期多數以上
ニ處セントスル乎二等ヲ加フル片ハ何年
何圓ニ處ス可キヤ其定度ヲ得ルノ基據ナ
カル可シ且ツ加等シテ長期以上ニ處スル
ト定ムル片ハ其本刑長期五年ニ該ル者ハ
一等ヲ加フレハ每五年以上即チ重罪ニ均
シキ刑ニ處セサルヲ得サル可シ又一等ヲ
減スル片ハ其本刑ノ短期寡數以下ニ處セ
ントスル乎二等ヲ減スル片ハ如何是レ亦

其定度ヲ得サル可シ故ニ禁錮罰金ノ刑ハ
先ツ各本條ニ記載シタル刑期金額ヲ以テ
一ノ基礎ト定メ一等ヲ加フル片ハ其基礎
タル刑期金額ノ四分ノ一即チ禁錮ノ長期
短期罰金ノ多數寡數ノ四分ノ一ヲ其基礎
タル刑ニ豫メ加ヘ置キ然ル後犯人ニ其刑
ヲ宣告スル者トス故ニ其基礎タル刑二年
以上四年以下ノ禁錮二圓以上二十圓以下
ノ罰金ニ該ル片ハ四分ノ一ヲ加フルヲ以
テ其刑ハ二年半以上五年以下ノ禁錮二圓
五十錢以上二十五圓以下ノ罰金トナルヲ
以テ犯情輕キ者ト雖モ二年半以下ノ禁錮
二圓五十錢以下ノ罰金ヲ宣告スルヲ得ス

復々其犯情重キ者ハ五年ノ禁錮二十五圓ノ罰金ニ處スルヲ得ル者トス若シ二等ヲ加フル片ハ三年以上六年以下ノ禁錮三圓以上三十圓以下ノ罰金トナルヲ以テ犯情重キ者ハ六年ノ禁錮三十圓ノ罰金ニ處スルヲ得之ニ及シテ此基礎タル刑ニ一等ヲ減スル片ハ一年半以上三年以下ノ禁錮一圓五十錢以上十五圓以下ノ罰金トナルヲ以テ犯情重キ者ト雖モ三年ノ禁錮十五圓ノ罰金ヲ過ルルヲ得ス又其犯情輕キ者ハ一年半ノ禁錮一圓五十錢ノ科料ニ處スルヲ得本條加重減輕ノ法ハ右ノ例ノ如キ者ナルヲ以テ判官刑ヲ宣告スルニ望メハ其

判文ニ何年ノ禁錮何圓ノ罰金ニ處ス可キノ處何等ヲ加ヘ又ハ何等ヲ減スルヲ以テ何年ノ禁錮何圓ノ罰金ニ處スト記載セサルヲ得ス否ラサレハ其本刑ニ長期短期多數寡數ノ間アルヲ以テ加重減輕ノ意ヲ盡スト雖モ若シ其本刑ノ長期短期多數寡數ノ間ヲ出テサル片ハ加重減輕シタル効見ハレサレハナリ間々亦加重ノ法ヲ用ヒテ禁錮ノ本刑ノ長期以上ニ處シ附加シタル罰金ハ加等シタル寡數ニ從ヒ或ハ附加シタル罰金ヲ多數以上ト處シ禁錮ハ加等シタル短期ニ止メ又減輕ノ法ヲ用ヒテ禁錮ハ本刑ノ短期以下ニ降シ附加シタル罰

金ハ減等シタル多數ニ止ノ或ハ附加シタル罰金ハ寡數以下ニ降シ禁錮ハ減等シタル長期ニ止ムル等ノ事ナル可キヲ以テ判官此ノ加重減輕ノ法ヲ用フル片ハ能ク注意セスシハアル可ラサル者ナリ
輕罪ノ主刑タル禁錮ハ固ト五年ヲ以テ其長期トス故ニ若シ此刑ヲ加等スル片ハ加ヘテ重罪ニ入ル、一ニ定メニ乎抑モ加等ノ法タル本罪ハ固ト重キ者ニ非ス但タ其犯人再犯ニ係ル乎又ハ二人以上通謀シテ犯スニ係ル乎又ハ特別ニ情罪惡ム可キ者ヲ待ツ為メニ設ケタル者ニシテ直クニ重罪ヲ犯シタル者ニ非サレハ加等シテ重罪

ニ入ルハ甚タ苛酷ニ過ル者ナリ然ル片ハ此刑ハ加等スト雖モ重罪ノ刑期ニ侵入スルヲ許サス五年ヲ以テ其止リト定メニ乎若シ然ル片ハ本刑五年ニ該ル者ハ總テ加等スル一ヲ得サル可シ因テ此刑ハ其加等ス可キ時ニ該レハ別ニ禁錮ノ期限ヲ長クシ處分スル一ニ定メニ乎禁錮ノ期限ヲ長クシテ五年以上ニ及ホス片ハ亦重罪ノ刑タル懲役禁獄ト其別チ立サルニ至ル可シ否ナ重罪ニ於テハ終身公權ヲ剝奪シ又監視ハ總テ免カル、一ヲ得ス之ニ反シテ輕罪ハ但タ刑期間公權ヲ停止シ又特別ニ後來ヲ豫防ス可キ罪ノ外監視ニ附スル一

ヲ得サルヲ以テ加等シテ五年以上ニ及ホ
スモ重罪ト其軽重大ニ異ナル者トス然リ
ト雖モ本刑長期五年ニ諫ル者ニ二等ヲ加
フレハ七年半三等ヲ加フレハ八年九月ノ
長キニ至ルヲ以テ剝奪公權監視ノ附加刑
ナシト雖モ其實重罪ノ刑ヨリ重キニ至ル
右等ノ不便アルニ因リ此刑ハ其禁錮ヲ加
ヘテ七年ニ至ルヲ得ト定メタル者トス
本條第二項即チ是ナリ

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處
シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰
金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五
錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルヲ

得

禁錮罰金ノ減等法ハ其刑法金額ノ四分ノ
一ヲ一等ト為シ減等スルヲ以テ四等ヲ減
スル件ハ毎ツモ減シ盡ス者トナル禁錮罰
金ハ減シ盡シタリトモ直チニ放免スルヲ
得ス因テ禁錮ヲ減盡シタル件ハ拘留ニ處
シ罰金ヲ減盡シタル件ハ科料ニ處スト定
メタリ故ニ此場合ニ望メハ判官ノ見込ニ
ヨリ一日以上十日以下及ヒ五錢以上一圓
九十五錢以下ノ間ヲ以テ適當ト思フ所ノ
刑期金額ヲ科スルヲ得
又最モ輕キ禁錮罰金ニ該ル者ハ其刑期短
ク金額寡キヲ以テ一等ヲ減スルモ其短期

十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フ
アリ十日以下一圓九十五錢以下ノ刑ハ拘
留科料ノ本刑ナルヲ以テ右ノ如ク減等シ
テ短期ノ十日以下寡數ノ一圓九十五錢以
下ニ及フ者ハ又判官ノ見込ヲ以テ拘留科
料ニ處スルモ不可ナキ者ナリ然ルニ其長
期多數ハ仍ホ輕罪ノ刑期金額中ニ在ルヲ
以テ禁錮罰金ニ從テ處断スルモ亦可ナル
者トス

第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時
ハ禁錮罰金ノ例ニ照シテ其四分ノ一ヲ加減
スルヲ以テ一等ト為ス
違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得ス但

拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルヲ得減シテ一
日以下ニ降スヲ得ス科料ハ加ヘテ二圓四
十錢ニ至ルヲ得減シテ五錢以下ニ降スヲ
得ス

本條ノ注解ハ第七十條ニ同シキヲ以テ再
ヒ茲ニ之ヲ贅セス其減シテ拘留ノ一日科
料ノ五錢以下ニ降スヲ得サルハ固ト罪
アル者ヲ減等ヲ以テ直チニ放免ス可カラ
サルニヨリ本刑法中最モ輕キ所ノ刑ニ止
メタル者ナリ故ニ拘留科料ハ實際三等以
上ハ減等ヲ用フルヲ得サル者トス

第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期
限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄

ス

輕キ刑期ニ該ル者ハ四分ノ一ヲ加減スル
件ハ一日ニ滿サル期限ノ零數ヲ生スル
多シ罰金ハ零數ヲ生スルトモ徵收ニ不便
ナシト雖モ禁錮拘留ニ至テハ一日ニ滿サ
ル零數ノ時間禁錮拘留スルハ甚ク體裁宜
シカラサルヲ以テ此零數ハ除棄スル者ト
ス

第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ
其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト
為ス若シ減盡シタル時ハ止テ主刑ヲ科ス
本條ハ附加ノ罰金ノ加減法ヲ示シタル者
ナリ即チ此ノ罰金ハ主刑ニ附加シタル者

ナルヲ以テ主刑ノ加減スルニ從ヒ共ニ四
分ノ一ヲ以テ一等ト為シ加減スル者トス
其罰金ヲ減盡シタル片ハ第七十一條ノ例
ニ照シテ科料ニ處セス止テ主刑ノミヲ科
スルハ科料ハ本ト附加ノ刑ニ非サルヲ以
テ附加ノ罰金ヲ減盡シタル片附加刑ニ非
サル科料ニ換フルヲ得サルニヨリ但テ主
刑ヲ拘留ニ處スルノミ

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其
意ニ非サルノ所為ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危
難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身体ヲ防衛スル
ニ出タル所為亦同シ

法律ニ違背シタル所為ヲ為ス者ハ其罪ヲ
免カル、ヲ得サルハ刑法ヲ設置シテ人ヲ
懲戒スル所ノ根本ノ主意トス本條以下各
條其罪ト為ル可キ所為ヲ為スト雖モ自己
ノ意ニ非スシテ為シタルヲ以テ其罪ヲ論
セサル非常ノ例ヲ掲ケタル者ナリ本條第
一項抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ
非サルノ所為トハ拒キ止ム可カラサル威
迫強制ニシテ此強制ナキ件ハ決シテ此所
為ヲ為サス即チ已レ自カラ此威迫強制ヲ

避タル為メ為シタル者ニ對テ自己ノ意ヲ
以テ為シタル所為ニ非サルコトヲ云フ例ヘ
ハ甲乙ヲ捕ヘ汝ヲ殺ス可シ否ヲサレ
ハ吾レ汝ヲ殺サント恐喝セシ件甲ノ威
迫甚ク強クシテ丙ヲ殺スニ非レハ乙自己
ノ生命ヲ全フスル能ハサルニヨリ丙ヲ殺
スニ至レリ此レ固ト乙自己ノ意ニ非ラス
但タ甲ノ丙ヲ殺ス器械ニ供セラレタルヲ
以テ此ノ場合ニ望メハ乙ノ罪ヲ論スルヲ
得ス又數人ノ盜アリ甲ヲ捕ヘ汝ヲ隣人ノ
屋壁ヲ毀テ吾ニ先シテ隣人ヲ縛ス可シ若
シ命ニ從ハサル件ハ汝ヲノ家ニ放火セシ
ト脅迫シタル件已ムヲ得ス隣人ノ屋壁ヲ

毀ヲモ示甲ノ罪ヲ論セサル者トス又兇徒
多衆ヲ嘯聚スルニ際シ良民ヲ脅迫シテ其
衆ニ入ラシメントスルニ若シ肯ニセサル
片ハ禍ニ遇フヲ懼レ已ムヲ得ス隨行スル
者ノ如キモ又其罪ヲ論セサル者トス
本條強制ニ遇ヒ已ムヲ得スシテ為シタル
所為ハ固ト罪ニ非ス何故其罪ヲ論セスト
掲ケタルヤト異議ヲ生スル者アリ固ヨリ
強制ニ遇ヒタル者ハ其心意ニ於テ毫モ罪
ト命ス可キ者ナシト雖モ其所為ニ至テハ
本刑法ニ於テハ人ヲ殺ス者ハ重罪人ノ屋
壁ヲ毀テタル者ハ輕罪等ト定メタルヲ以
テ其人ヲ殺シ人ノ屋壁ヲ毀テタル罪ハ強

制ヲ受ケシ者ノ意ニ非サルヲ以テ其罪ヲ
論セスト定メタル所以ナリ
本條第二項モ亦第一項ト其意ヲ同シクス
ル者トス止タ其罪ヲ犯スニ至ル原因ノ異
ナルニヨリ項ヲ別テ掲ケタル者ナリ火災
地震洪水及ヒ航海中風濤ノ難ニ遇フ等ノ
片ニ際シ其危難ヲ避ケントスルニ衆ニ他
人ヲ殺傷シ又他人ノ物件ヲ毀壞滅盡スル
ニ至ルモ固ト此レ自己ニ親屬ノ身体ヲ
全フセントスル為ニ為シタル所為ナル
ヲ以テ其強制ヤ實ニ天災ニ在リ因テ亦其
罪ヲ論セサル者トス抑モ本項ノ所為タル
ヤ人間互ニ相保護ニ相愛スルノ道義ニ於

テ決シテ賞譽ス可ラサル所ノ者ナリ然リ
ト雖モ人此ノ間ノ危難ニ望メハ精神錯亂
シ實ニ道義ノ如何ヲ顧慮スルニ暇アラス
偶然右等ノ所為ヲ為スニ係ルヲ以テ法律
ニ於テモ亦罪トシ刑スルニ忍ハサル者ナ
リ

第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ
以テ為シタル者ハ其罪ヲ論セス

本條ハ自己ノ職務ニ係リ本屬長官ノ命ヲ
奉シテ為シタルヲナルヲ以テ其所為ヤ此
刑法ニ於テハ重罪又ハ輕罪等トシ罰スル
トナリト雖モ又其所為ヲ罪トシ論セサル
者トス例ヘハ捕吏ノ罪人ヲ捕縛シ獄卒ノ

囚徒ヲ監禁絞殺シ及ヒ兇徒聚衆ノ時ニ際
シ兵卒ノ其長官ノ指揮ニ從ヒ人ヲ銃殺ス
ルノ類ナリ抑モ此等ノ事タルヤ實ニ刑法
上非常中ノ亦非常ノ變例ニ係ル立法者ノ
注意茲ニ至テ盡セリト謂フ可シ

右ノ如ク解シ來レハ本條ハ殆ント無用ニ
屬スル者ノ如シ然リト雖モ若シ本條ヲ以
テ本屬長官ノ權内ニ在ラサル事ト雖モ其
長官ノ命令アリタルハ所屬ノ官吏ニ於
テハ其命令ニ遵ハサルヲ得ストスレハ本
條ハ實ニ必要ニシテ一日モ無クシハ本
可カラサル所ノ者ナリ例ヘハ兵卒ニシテ
發砲ス可カラサル場所ニ於テ長上ノ命ニ

司法省

ヨリ發砲ニ警察官吏ニシテ逮捕ス可カラ
サル者ヲ長官ノ命ニヨリ逮捕シ又司法卿
ニシテ死刑ニ處ス可カラサル犯人ヲ以テ
執行ヲ事トル官吏ニ命シテ死刑ニ處セシ
ムルノ類ノ如シ即チ其本屬長官ノ權内ニ
在ラサルヲモ又其命令アル片ハ遵テ執
行セサルヲ得ストスル片ハ其命ヲ受ケ執
行スル所ノ者ハ假令其長官ノ權内ニ在ラ
サルヲ知ルモ亦其罪ヲ論ス可カラサル
者ナリ本條ノ骨子恐クハ此一點ニアルナ
ル可シ

第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所為ハ其罪ヲ
論セス但法律ニ於テ別ニ踈虞懈怠ノ罪ヲ定

メタル者ハ此限ニ在ラス
罪ト為ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者
ハ其罪ヲ論セス
罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其
重キニ從テ論スルヲ得ス
法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト
為スヲ得ス

本條第一項ハ刑法上罪ト為ル可キ所為ヲ
為スニ係ルト雖モ其所為タルヤ固ト其罪
ヲ犯スニ意ナキヲ以テ亦其罪ヲ論セサル
者トス例ヘハ馭者舟人ノ誤テ舟車ヲ覆ヘ
シ火夫職工ノ家屋ヲ建築シ又ハ火器ヲ弄
スルニ因リ誤テ人ヲ殺傷シ又ハ他人ノ物

件ニ損害ヲ及ホスノ類ナリ然リト雖モ若
シ疎虞懈怠ニ因リ右ノ所為ヲ為スニ係ル
者ハ人ヲ殺傷シ又他人ノ物件ヲ損害シタ
ル正當ノ罪ヲ以テ論セスト雖モ其人ヲ殺
傷シタル者ハ第三百十七條以下ニ照シ疎
虞懈怠ニ因テ人ヲ殺傷シタル罪ニ處シ又
人ノ家屋ヲ燒燬スルニ至ル者ハ失火ノ罪
ニ處セララル者トス若シ又疎虞懈怠ナク
正當ノ事ヲ為スニ因リ右ノ罪ヲ犯スニ至
ル片ハ本項ニ因リ全ク其罪ヲ論セサル者
トス
本條第二項ハ例ヘハ人ノ妻タルヲ知ラス
シテ姦通シ又二十歳未滿ノ幼者ヲ丁年者

ト誤認シテ誘招シ又父母ノ家ニ於テ父母
ノ財産ト思ヒ他人ノ財産ヲ竊取シタル類
ニシテ初ノヨリ其罪トナル可キ事實ヲ知
ラサルヲ以テ亦其罪ヲ論セサル者トス
本條第三項ハ例ヘハ官吏ノ職務ヲ行フヲ
妨害スルニ該リ官吏タルヲ知ラスシテ毆
打創傷シ又子孫タル者ノ其祖父母父母タ
ルヲ知ラスシテ毆打創傷スルノ類ノ如シ
此等ノ罪ハ本ト凡人ニ對シテ行フタルヨ
リ一等又ハ二等ヲ加ヘテ科断ス可キ者ト
雖モ其犯ス片官吏并ヒ祖父母父母タルヲ
知ラサルヲ以テ重キニ從テ論スルヲ得
ス通常ノ刑ニ處スル者トス

本條第四項ハ既ニ頒布シテ禁シタルハ其頒布シタル法律規則ヲ知ラスシテ犯シタルニ係ルモ其犯シタル者ヲ犯スノ意ナシト為スヲ得ス即チ既ニ頒布シテ禁シタルハ假令本犯其法ヲ知ラスト雖モ其罪ヲ免カルハ得サル者トス頒布シタル法ヲ知ラサル者ハ知ラサル者ノ過チニシテ且罪ト為ル可キノ所為ハ犯人自己ノ道義心ヲ損シ世間ニ害ヲ遺ス者ナルヲ以テ犯人自己ノ良心ニ向ヘハ其法アルヲ知ラスト雖モ亦其罪ヲ免カルハ得サル者ナリ

第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因

テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス本條ハ罪ヲ犯ス片其精神ヲ喪失シタル者ヲ待ツ為メニ設ク故ニ從前喪心ノ病アルモ犯ス片其病治リタル者ハ亦本條ノ恩典ヲ得サル者トス知覺精神ヲ喪失ニ是非善惡ヲ辨別セサル者ハ罪ヲ犯スノ意ナキ者ナリ罪ヲ犯スノ意ナキ者ノ所為ハ其所為ヲ罪トシテ論スルヲ得サルノミナラス知覺精神ヲ喪失シタル者ハ例ヘハ瘋癲人ノ如シ自己ノ身体ヲ傷フモ更ニ患フル心ナキニヨリ其者ヲ刑スルモ更ニ其効ナキヲ以テ亦其罪ヲ論セサル者トス白痴者及ヒ酒狂ニ乘リ罪ヲ犯ス者モ本條

白痴酒狂人ノ犯罪
ハ總テ本條ノ恩典

刑法

ヲ與ヘスト定ムル
宜キヤ否他日ノ
再議ヲ仰カントス

ニ含有スト論スル者アリト雖モ白痴酒狂
人等ハ其白痴酒狂ノ度ニ於テ大ニ輕重ア
ル者ナルヲ以テ一概本條ニ含有スト為ス
可カラス右等ノ者ノ罪ヲ犯スニ係ル片ハ
判官實際ニ望ミ簡分處分スルヲ要スル者
トス

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ
其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ情状ニ因
リ滿十六歳ニ過キサレ時間之ヲ懲治場ニ留
置スルヲ得

本條以下幼者ノ罪ヲ處分スルノ法トス抑
モ幼者ハ丁年者ニ比スレハ其思慮少ナク
且ツ極幼ノ者ハ全ク其思慮ナキヲ以テ本

刑法幼者ノ罪ヲ處分スルノ法第三段ニ區
別セリ第一十二歳未滿ノ者第二十二歳以
上十六歳未滿ノ者第三十六歳以上二十歳
未滿ノ者トス此等ノ幼者ハ其犯ス所ノ所
為ノ罪ト為ルヤ否ヲ知ラス又稍々其不良
ノ所為タルヲ知ルト雖モ未ダ丁年以上ノ
者ノ如ク是非善惡ヲ辨知セサルヲ以テ丁
年以上ノ者ト等シク處分スルヲ得ス因テ
其罪ヲ論セス又其罪ヲ減輕ス可キ者トス
各國刑法皆如此唯其國固有ノ慣習ニヨリ
稍々其年限ニ異同アルノニ本邦舊來ノ法
ハ七歳以下其罪ヲ論セス七歳以上十歳以
下死罪ニ該ル者ハ議擬奏聞シテ上裁ヲ請

司法省

七盜罪及ヒ人ヲ傷スル者ハ其罪ヲ收贖シ
其餘ノ罪ハ皆論スルヲ得ス十歳以上十五
歳以下死罪ヲ除クノ外皆收贖ヲ許シ其十
六歳以上ニ係ル者ハ普通ノ法ニ從フ者ナ
リシ本刑法ニ於テハ十二歳未滿ノ幼者ハ
皆其罪ヲ論セス十二歳以上十六歳未滿ノ
者ハ其是非ヲ辨別スルト否ラサルトニ因
リ不論罪及ヒ減等ニ處シ十六歳以上二十
歳未滿ノ者ハ是非ヲ辨別シタルト否トニ
拘ハラス一体ニ丁年者ニ一等ヲ減スト定
メタリ實ニ能ク幼者ノ心意ヲ酌量シタル
者ト謂フ可シ
本條ハ即チ右ニ掲グル十二歳未滿ノ幼者

ノ犯罪ニ係ルヲ以テ其罪ヲ論セサル者ト
ス然リト雖モ人幼少ヨリ早ク知慮ノ發達
スル者アリ又其父母親屬タル者ノ能ク其
教育ヲ全フスル能ハサル者アルトニヨリ
八歳以上ニ至ル者ハ犯者ノ情状ヲ量リ獄
場中別ニ設ケタル所ノ懲治場ニ留置シ其
後來ヲ監護教育セシムル者トス然ルニ又
其懲治場中ニ在ルノ長キニ過ル片ハ世人
ニ交接スルノ道断ルヲ以テ翻テ其幼者ヲ
教育スルノ道ニ背クニ至ル因テ十六歳ニ
過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ
得ト定メタル所以ナリ

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ

一段ヲ讓ル所ノ年次ニ係ル者ナルヲ以テ
其思慮又殆ント丁年者ニ近キ者ナリ故ニ
是ノ幼者ハ事ノ是非善惡ハ既ニ辨別シタ
ル者ト見做シ其是非ヲ辨別シテ為シタル
ヤ否ヲ判断スルヲ待タス唯丁年以上ノ者
ニ一等ヲ減輕シテ處断スル者トス

第八十二條

瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ

論セス但情状ニ因リ五年ニ過キサル時間之
ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

盲者ハ其眼ナシト雖モ世間ノ道理ハ能ク
聞知スル者ナリ啞者ニ至テハ唯眼ヲ以テ
世間ノ事物ヲ見ルノミニシテ其是非善惡
ノ道理ニ於テハ生來曾テ聞クナキヲ以

テ其思想殆ント十二歳以下ノ幼者ニ同シ
因テ亦其罪ヲ論セス唯五年ニ過キサル時
間懲治場ニ留置スルヲ得ル者トス
曾テ聞ク西洋諸國ニ於テハ啞院ヲ設ケ能
ク其教育ヲ盡シ啞者能ク筆談ヲ為シ世間
ノ交際殆ント常人ニ異ナラサル者アリト
若シ本邦他日啞院ヲ設置シ右ノ如ク啞者
ノ教育ヲ得ルニ至ルハ本條ハ改正ヲ加
ヘサルヲ得スト雖モ現今ニ於テハ啞者ノ
思想殆ント幼者ト同シキヲ以テ本條ノ如
キハ大ニ時情ニ適中スル者トス且多クノ
啞者中ニ於テハ間々是非ヲ辨別スル者ア
リト雖モ亦其言語ヲ為スル能ハサルヲ以

テ常人ニ比スレハ大ニ憫諒ヲ加フ可キ者ナリ

第八十三條 違警罪ハ滿十六歲以上二十歲ニ

滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルヲ得ス

滿十二歲以上十六歲ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥

恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス十二歲ニ滿サル者

及ヒ瘖啞者ハ其罪ヲ論セス

違警罪ハ其本條ヲ見レハ各種ノ規則ニ違

背スル者ヲ罰スル法ニ係ル故ニ犯人ノ故

意過誤ヲ同ハス止テ此規則ニ違背スル者

ハ此規則ヲ保護スル為メ其刑ヲ加フル者

トス且此ノ刑ハ至テ輕キ者ナルヲ以テ十

六歲以上二十歲未滿ノ者モ其罪ヲ宥恕ス

ルヲ得ス唯其十二歲以上十六歲ニ滿サル者ハ其思慮未タ全カラサルノ故ヲ以テ本刑ニ一等ヲ減シ十二歲ニ滿サル者及ヒ瘖啞者ハ前數條ノ例ニ從ヒ其罪ヲ論セサル者トス

第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不論

罪宥恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

本節ニ記載シタル者ハ一般ノ事ニ關スル

不論罪并ニ宥恕減輕ノ法トス此一般ノ犯

罪ノ外特別ノ不論罪及ヒ宥恕減輕トハ本

刑法第三編第三節ニ記載シタル人ヲ殺傷

シタル罪ヲ宥恕シ又其罪ヲ論セサル等ノ

ヲ謂フ即チ此等ノ人ヲ殺傷シタル罪ノ

ミラ處分スル特別ノ不論罪兵ニ宥恕減輕
ハ各其本條ニ記載セリト本條ヲ以テ特ニ
此ノ特別法ノアルヲ示シタル者ナリ

第二節 自首減輕

第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ
於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス
但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラ
ス

舊刑法罪ヲ犯シ自首ヲ為ス者ヲ減免スル
ハ其能ク過テ改メ來テ其罪ヲ首スル自
新ノ意ヲ賞スルヲ以テ其主意トス然ルニ
其罪タルヤ人ニ加ヘタル害ヲ舊ニ復セシ
ムル者ニ非サレハ假令其過ヲ改ムルモ亦

減免スルヲ得サレニヨリ實際自首ニ因テ
減免ヲ得ル者ハ唯數種ノ罪ニ限ル者トス
本刑法自首減輕ノ法ヲ設ケタルハ本犯悔
悟自新ノ意ヲ賞スルノミナラス自カラ其
罪ヲ首出スル片ハ第一政府ニ於テ犯人并
ニ其共犯ヲ探索捕獲スルノ手数ヲ省キ第
二自首スルヲ以テ其真犯ヲ獲ルカ為メ寬
罪ヲ他人ニ及ホスノ害ヲ除ク第三其真犯
ヲ獲ルヲ以テ世人ヲシテ安心セシムル等
ノ理由アルニ因テ其人ニ加ヘタル害ヲ舊
ニ復スルヲ得サル者モ仍ホ其自首ヲ以テ
減等ヲ與フルヲ定メタリ故ニ自首ニ因
テ減等ヲ得ル者舊法ニ比スレハ大ニ其數

ヲ増ス者トス然ルニ右ノ如ク總テノ犯罪
ニ對シ全ク其罪ヲ免スル片ハ終ニ罪ヲ犯
シ刑ヲ受クル者ナキニ至ルヲ以テ其財產
ニ對シタル罪ヲ犯ス者ヲ除クノ外止テ僅
カニ一等ヲ減スル者トス然ルニ闘毆其他
ノ事ニ因リ人ヲ殺シタル者ハ本心ヨリ悔
悟スル片ハ此等ノ罪ハ固ト人ヲ殺スノ意
ナクシテ殺スニ至ル者ナルヲ以テ本條ニ
依リ減等ヲ與フルヲ得ト雖モ止テ謀殺故
殺ノ二罪ハ多クハ怨恨ヲ懷キ人ヲ殺ス者
ニ係ル即チ今日其敵手ヲ殺シ明日自首ス
ル等ノ弊ヲ生スルニ因リ斯ノ犯罪ニ自首
ヲ以テ減等ヲ與フル片ハ之ニ由テ反テ世

間ノ害ヲ起スニ至ルヲ以テ此二罪ハ自首
減等ヲ得サル者トス
本條未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタル
者トハ其犯罪ノ證據未タ發セス又ハ告訴
告發アラサル前ニ於テ官ニ首出スル者ヲ
謂フ故ニ若シ犯罪ノ證據既ニ發シ又ハ告
訴告發アリタル後ハ本犯ノ自首スルヲ待
タス直チニ其犯人ヲ捕獲スルヲ得又其罪
發覺シタル後チ首出スル者ハ真ニ罪ヲ悔
ルニ非ス其捕獲ヲ畏レ已ムヲ得ス首出ス
ルニ係ルヲ以テ減等ヲ與ヘサル者トス
第八十六條 財產ニ對スル罪ヲ犯シタル者自
首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時

ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス

本條ノ罪ハ被害者ノ損害ヲ償ヒ舊ニ復スルヲ得ル罪ナルヲ以テ若シ其罪ヲ首シテ贓物ヲ返還シ損害ヲ賠償シタル片ハ被害者一人ニ對シテハ既ニ其害ヲ除キタル者トス因テ前條ニ照シ一等ヲ減スルノ外其贓物并ニ損害ノ全部ヲ還償シタル片ハ仍ホ二等ヲ減シ前條自首減等ニ通シテ三等ヲ減スル者トス然ルニ其贓物損害ノ全部ヲ還償スルヲ得ス但半額以上ヲ還償シタル者ハ一等ヲ減シ自首減等ニ通シテ二等

ヲ減スル者トス故ニ其還償半額ニ及ハサル者ハ自首減等ノ外減輕ヲ得サル者トス強盜人ヲ殺傷シタル者ハ本條ニ因ルヲ得サル可シ何トナレハ故毆殺ノ罪ヨリ輕クナレハナリ且又未遂犯罪ノ時ニ際シテモ殺傷ト盜罪トハ別ツテ得サレハナリ

第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處断ス
本條モ亦前條ノ罪ニ同シ但其官ニ自首スルヲ得スト雖モ被害者ニ首服シタル者ハ其悔悟ノ心官ニ自首スルト同シキヲ以テ贓物ヲ返還シ損害ヲ賠償シタル額ノ多少

ニ從ヒ前條ト等シク二等又ハ三等ヲ減シテ處分スル者トス

第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ

本條ハ内亂ノ豫備ヲ為シ未タ其事ヲ擧ケサル前自首シタル者及ヒ貨幣ヲ偽造變造シテ未タ行使セサル前自首シタル者等ヲ謂フ此等ノ犯罪ハ其自首ニ因テ特ニ一時ヲ寧濟シ又ハ大害ノ未タ生セサル前ニ於テ防遏スルニ至ルヲ以テ本節ニ記載シタル減等ノ法ヲ用ヒス其主刑ヲ全免スル者トス故ニ是等ノ特別免罪ニ處ス可キ者ハ夫々其本條ニ記載スルヲ以テ各其本條ニ

從テ處分ス可キ者トス

第三節 酌量減輕

第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情

狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スル

ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スル

得
本刑法ハ重罪輕罪違警罪ヲ分タス其刑期ニ長期短期罰金ニ多數寡數ノ間アルヲ以テ犯情ノ輕重ニ從ヒ夫々適當ノ刑ニ處スルヲ得可シト雖モ然ルニ犯情ノ千差萬別ナル犯人身分ノ人毎ニ各相同シカラサル

譬へ本刑ノ最短期最寡數ニ處スルモ仍ホ其刑ノ酷ナルヲ免カレサル場合アリ因テ本條ヲ設置シ其最モ情状ノ原諒ス可キ者ヲ處分スル者トス故ニ通常ノ刑ニ處ス可キ者ヲ減輕スルノミナラス各本條ニ於テ其刑ヲ加重シ又ハ減輕スル者モ原諒ス可キ情状アル片ハ其加重又ハ減輕アリシニ拘ハラス仍ホ減輕スルヲ得可キ者トス

第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

本條酌量減輕ヲ僅カニ一等又ハ二等ニ止メタリ舊法ニ比スレハ其減等寡キヲ以テ此ノ刑法ヲ施行スル時ニ臨メハ其減輕寡

キノ歎ナキニ非サルニ似タリト雖モ本刑法ハ舊法ノ如ク刑名ノ等級多カラズ輕罪ニ至テハ四等ヲ減スル片ハ每減盡スルニ至ル者ナリ亦前ニ解明シタル如ク其刑期金額ニ長期短期多數寡數ノ間アル法ナルヲ以テ減輕シテ其短期寡數ニ處スル片ハ其減輕寡シト謂フヲ得ス且ツ人情多クハ犯人ヲ憐ミ減等スルヲ好ム者ナルニ因リ實際上ニ於テハ減等ヲ過シ刑ノ効ヲ減却スルニ至ルヲ多キヲ以テ本條酌量減輕ヲ二等ニ止メタル所以ナリ

第五章 再犯加重

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者
再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ
罪ヲ犯シ既ニ處断ヲ經ルノ後再ヒ罪ヲ犯ス者ハ再犯ト為シ其本刑ニ加等シテ處分スルノ法及ヒ未タ判決ヲ經サルニ罪以上俱ニ發シタル片ハ重キ一罪ニ從テ處断スルノ法ハ同シク二罪ヲ犯ス者ニシテ一ハ再犯トシテ加等シ一ハ重キ一罪ニ從テ餘罪ヲ論セサルヲ以テ其權衡合ハス自カラ犯罪ヲ處分スル公平ノ主意ニ矛盾スル者ナリ且ツ再犯加等ノ一法并ニ數罪俱發ノ

一法ニ於テモ夫々權衡ヲ正シクミテ處分セントスレハ論理上ニ於テ甚タ不通ノ事ヲ生スルニヨリ寧ロ再犯ハ其刑ヲ加等セサルヲ定メテ如何ト喋々論スル者アリ然ルニ各國刑法再犯ヲ加等セサル者甚タ稀ナリ又數罪ヲ盡ク科スル者ナシ右ハ大ニ再犯ハ加等セサルヲ得ス又數罪ハ併科ス可カラサル理由ノ在ル有ルヲ以テノ故ナリ即チ既ニ一罪ヲ犯シ其處断ヲ經仍ホ其惡心ヲ改メスシテ再ヒ罪ヲ犯スニヨリ其刑ヲ加重シテ處断スルニ非サレハ其罪ヲ懲ラスニ足ラス因テ加等スル者トス是レ各國刑法ニ於テ多ク再犯ヲ加等スルノ

刑法

理由トス本刑法ニ於テモ論者ノ説ニ從ハ
スシテ再犯ヲ加等スルハ正ニ此意ニ外ナ
ラス數罪俱發ノ一ニ至テハ其本章ニ就キ
解明セシトス

本二條ハ右ノ理由ナルヲ以テ先ニ輕罪ノ
刑ニ處セラレシ者再ヒ重罪ヲ犯ス片ハ其
刑ヲ加等ヤス先ノ輕罪ノ刑輕クシテ再犯
ノ重罪ヲ懲ラスニ足ラサル者ト見做セハ
ナリ故ニ先ニ重罪ヲ犯シ再ヒ重罪ヲ犯シ
タル者又ハ先ニ重罪輕罪ヲ犯シ再ヒ輕罪
ヲ犯シタル時ニ非サレハ其刑ヲ加等ヤサ
ル者トス然ルニ無期徒流刑ニ該ル者ハ第
六十六條ニ因レハ加ヘテ死ト入ル、一ヲ

得サルヲ以テ獄則ニ從テ別ニ懲戒ノ處分
ヲ為スニ非サレハ加等スル一ヲ得サル者
トス

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル
者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ
但一年内再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄内ニ於
テ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スル
一ヲ得ス

違警罪ハ重罪輕罪ト其性質ヲ異ニシタル
者ニシテ但多ク各種ノ規則ニ違背スル者
ヲ罰スル刑ニ係ル故ニ前條ト其例ヲ異ニ
シテ處分スル者トス即チ初犯ノ重罪輕罪
ト其性質ヲ異ニスルニヨリ初犯ノ刑ニ懲

リスミテ再ヒ此罪ヲ犯シタリト謂フヲ得
ス何トナレハ違警罪ハ人家稠密ノ場所ニ
於テ火器ヲ玩ヒタル者家屋牆壁ノ修理ヲ
怠リタル者路上ニ於テ獸類ヲ驚逸セシメ
タル者等ノ罪ニシテ全ク重罪輕罪ト其関
係ヲ有セサル者ナレハナリ故ニ初犯重輕
罪ニ係ル者再犯違警罪ニ該ル片ハ其刑ヲ
加等セス止夕初犯違警罪ニシテ再犯又違
警罪ニ該ル時初メテ其刑ヲ加等スル者ト
ス然ルニ此違警罪ハ右ニ掲グル如ク專ラ
各種ノ規則ニ違背スル者ヲ罰スル法ニシ
テ其犯人ノ故意過誤ヲ別タサルヲ以テ此
ノ刑ヲ受クル者ハ甚タ多クアル者トス將

又此罪ハ一縣内ニ在テ甲區ニ於テハ罪ト
セスミテ乙區ニ於テ罪トナルヲアルニヨ
リ甲區ノ犯人乙區ニ於テ罪トナルヲ知ラ
ス犯ス者アリ又重罪輕罪ハ各所ノ裁判所
ニ記録シ置クヲ以テ其再犯タルヲ知ル
易シト雖モ違警罪ニ至テハ夫々其再犯タ
ルヲ知ルヲ難シ故ニ此罪ハ一年內再ヒ其
違警罪裁判所ノ管轄内ニ於テ犯シタル片
ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得サル
者トス

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後
ニ非サレハ之ヲ論スルヲ得ス
本條ハ再犯トシテ加等スル所ノ原則ヲ掲

ケタル者ナリ再犯トシテ加等ス可キ者ハ
初犯ノ罪ノ確定シタル後ニ非サレハ其加
等ス可キ理由ノ生セサルヲ以テナリ故ニ
上告中兵ニ闕席裁判ニ係ル者ハ再ヒ罪ヲ
犯スト雖モ再犯ト為シ加等スルヲ得サ
ル者トス

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑
ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者
ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初
犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共
ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ
者ヲ執行ス
罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各自ニ

之ヲ徴收ス

前犯ノ刑期限内ニ在テ再ヒ罪ヲ犯ス片ハ
前後二罪ノ中何レヲ先ニ執行ス可キヤ其
順序ヲ定メサルヲ得ス本條ハ其順序ヲ定
メタル者ナリ其順序タルヤ定役アル刑ヲ
先ニシテ定役ナキ刑ヲ後ニシ又重キ刑ヲ
先ニシテ輕キ刑ヲ後ニスルヲ甚タ道理ニ
適フ者トス故ニ定役ニ服ス可キ者即チ懲
役若クハ重禁錮ノ刑期中定役ニ服セサル
者即チ禁獄若クハ輕禁錮ノ刑ニ該ル罪ヲ
犯シタル片ハ先ツ定役ニ服ス可キ者ヲ執
行シ之ニ及シテ定役ニ服セサル刑ノ期限
中定役ニ服ス可キ罪ヲ犯シタル時モ亦其

本項ノ末ニ三犯以上
モ亦此例ニ因ルト
云フ數語ヲ加フル
ヲ可トスル乎再議
ヲ仰カントス

定役ニ服ス可キ者ヲ先ニ執行スル者トス
又初犯再犯共ニ定役ニ服ス可キ刑即チ懲
役若クハ重禁錮ノ刑ニ該ル件ハ懲役ヲ重
禁錮ヨリ先ニ執行シ又初犯再犯共ニ定役
ニ服セサル刑即チ禁獄若クハ輕禁錮ニ該
ル時ハ禁獄ヲ輕禁錮ヨリ先ニ執行ト定メ
タル者ナリ
罰金科料ハ右ノ如ク順序ヲ立テ徵收スル
ニ及ハサル刑ナルヲ以テ各自ニ之ヲ徵收
スル者トス然ルニ本刑法第二十七條及ヒ
第三十條ニ從ヘハ罰金ハ一月内ニ納完セ
シムル者ニシテ科料ハ十日内ニ納完セシ
ムル者ト定メタリ故ニ其犯人右ノ期限内

ニ納完スルヲ能ハサル件ハ直チニ禁錮拘
留ニ換テ處断セラル、ヲ以テ犯人其罰金
科料ノ内十日ノ末ニ至リ先ツ二圓金ヲ納
メタル片ハ自然ニ科料ヲ先ニ徵收シタル
者ト見做サ、ルヲ得ス否ラスシテ右ノ二
圓ヲ罰金ト見做ス片ハ直チニ拘留ヲ受ケ
サルヲ得サルノ不幸アレハナリ
第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タ
ル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ罪
常律ニ從ヒ處断シタル者ニ非サレハ再犯ヲ
以テ論スルヲ得ス
本條ハ初犯ノ罪陸海軍律ニ依テ處断ヲ經
タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ其刑ヲ加等

刑法

セサルヲ云フ抑モ軍律ハ專ラ軍人ヲシテ其長上ヲ畏敬セシメ又軍規ヲ整肅ナラシムル為メ常律ノ外特別ニ設ケタル者ニシテ其罪タルヤ謀叛抗命擅權辱職暴行違令逃亡及ヒ糧食ヲ偽造シ軍器ヲ私賣スル等ノ數種ノ罪ニ過キス故ニ多ク常人ノ犯ス可カラサル罪ニシテ例ヘハ猶ホ官吏ニ懲戒令アル如ク軍人ニ在ラサレハ又多ク此刑ヲ科ス可カラサル者ナリ故ニ先ニ軍律ニ依テ處断ヲ經シ者ハ再ヒ常律ニ記載スル罪ヲ犯スモ右ニ掲ケタル軍律ニ記載スル罪ハ常律ノ罪ト全ク其性質ヲ異ニスルヲ以テ初犯ノ刑ヲ以テ再犯ノ罪ヲ懲

戒スルニ足ラス因テ其刑ヲ加等セサル者トス然ルニ軍人ト雖モ右ニ掲ケタル數種ノ罪ノ外常律ニ記載シタル罪ヲ犯ス片ハ假令其犯人ハ軍衛ニ於テ處断ヲ為スモ再ヒ罪ヲ犯ス片ハ仍ホ再犯トシテ加等スル者トス

第九十七條

大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルヲ得

大赦ハ第六十四條ニ於テ解明シタル如ク固ト一種ノ犯罪ニ對シ刑名宣告ノ前後ヲ論セス告訴ノ權逮捕ノ權刑罰執行ノ權等悉ク之ヲ消滅セシムル者ニシテ世間ニ於

テ罪ヲ犯シタリト見做サ、ル所ノ者ナリ
故ニ大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪
ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論シ加等スル
ヲ得サル者トス

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法

ハ再犯ノ例ニ同シ
再犯ニ一等ヲ加ヘ處断スルハ三犯四犯
ニ至レハ又各一等ヲ累加シテ處断セサル
ヲ得ス若シ否ラサルハ頗ル論理上ニ於
テ不公平ナル者トス然ルニ如此罪ヲ犯ス
毎ニ等ヲ加ヘテ處断スルニ定ムルハ
幾等ヲ加ヘテ止メシトスル乎終ニ其加等
實際限ナキニヨリ實際上ニ於テ大ニ煩雜

ヲ生スルニ至ラ、然ルノミナラス輕キ刑
ハ三等又ハ四等ヲ加フルヲ得ルモ重キ刑
ニ至テハ多ク加等スルヲ得サルヲ以テ其
權衡ヲ得ス且ツ其犯罪三犯四犯ニ及フモ
其犯シタル罪固ト微罪ナルハ夫々數等
ヲ加ヘテ重クスルハ罪ト刑ト適當セサ
ルヲ以テ又大ニ苛酷ニ過ルノ弊アリ將又
各國刑法ニ於テハ魯西亜國刑法ヲ除クノ
外再犯以上其刑ヲ累加シタル者ナキニ因
リ本條ヲ設ケ三犯以上ハ別ニ加等ノ法ヲ
用ヒス但タ再犯加重ノ例ニ從テ處断ス可
シト定メタル所以ナリ

第六章 加減順序

第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト為ス

一 再犯加重

二 宥恕減輕

三 自首減輕

四 酌量減輕

一ノ罪ヲ犯シ其判決ヲ為スニ臨ミ同時ニ加重減輕ス可キ場合甚タ多シ即チ其犯人再犯ニ係ル片ハ加重セサルヲ得ス若シ又

二十歳以下ニシテ且ツ自首スル片ハ宥恕減輕ノ恩典并ニ自首減輕ノ恩典ヲ與ヘサルヲ得ス若シ又其上ニ仍ホ酌量減輕ス可キ情狀アル片ハ又其減輕ヲ與ヘサルヲ得サル者ナリ本條ハ其加重減輕ヲ為ス可キ順序ヲ示シタル者トス若シ此順序ヲ定メサル片ハ或ハ減輕ヲ先ニシテ加重ヲ後ニシ又或ハ加重ヲ先ニシテ減輕ヲ後ニスル等ノ一アリテ判官ノ異ナル毎ニ夫々其加重減輕ノ順序ヲ異ニシ裁判ノ規律ヲシテ錯亂セシムルノミナラス加重減輕ノ順序ヲ前後スル片ハ同一ノ犯罪ニ對シ大キニ不權衡ヲ生スルニ至ル者ナリ然ルニ此ノ

加重ヲ先ニシテ減輕ヲ後ニスル法モ亦頗ル
公平ノ處分トモ見做シ難シト雖モ判官ノ
異ナル毎ニ加減ノ順序ヲ前後スルノ更ニ
不權衡ヲ生スルニ比スレハ大ニ公平ノ處
分ヲ得ルヲ以テ加重ヲ先ニシテ減輕ヲ後ニ
スルトニ定メタル者ナリ今茲ニ加重ヲ先
ニシテ減輕ヲ後ニシテ又減輕ヲ先ニシテ加
重ヲ後ニスル數例ヲ掲ケ其損益ヲ示サン
トス

本條特別ノ加重トハ官吏ノ職務ヲ行フヲ
妨害スルニ該リ其官吏ヲ毆傷シタル片ハ
凡人ヲ毆傷シタル刑ニ一等ヲ加ヘ子孫祖
父母父母ノ身体ニ對シタル罪ハ凡人ニ二

等ヲ加ヘテ處断スルノ類ヲ云フ又特別ノ
減輕トハ内亂ノ豫備ヲ為シ未タ事ヲ擧ケ
サル者ハ現ニ内亂ヲ起シタル者ニ一等ヲ
減シ貨幣ヲ偽造シテ未タ行使セサル者ハ
既ニ行使シタル者ニ一等ヲ減スルノ類ニ
シテ一般ノ罪ニ關係ナキ各本條ニ於テ特
ニ加重減輕スル者ヲ云フ
又本條輕罪ノ減輕ハ人或ハ一度一等ヲ減
輕スルハ本刑ノ四分ノ一ヲ減スルト更ニ
論スルヲ要セス若シ再ヒ減等スル片ハ其
既ニ一度減等シタル刑ヲ再ヒ四分ノ一ニ
區別シ減スルヤ如何ト疑ヲ起ス者アル可
シト雖モ決シテ如此一度減等シタル上ニ

再ヒ其減等シタル刑ヲ四分ノ一ニ區別シ
テ減輕スル者ニ非ラス第七十條ニ記載シ
タル如ク但各本條ニ記載シタル刑ヲ四等
ニ別テ減輕スルノミ

第一例 即加重ヲ先ニシテ犯人ニ益アル

再犯無期徒刑ニ該ル者加重ヲ先ニスレハ
無期徒刑ニ該ル者ハ加ヘテ死ニ入ル、一
ヲ得サルヲ以テ加重スル一ヲ得ス然ルニ
本犯二十歳未滿ノ幼者ニ係ル片ハ一等ヲ
減セサル得ス若シ又自首ヲ為ス片ハ前ニ
通シテ二等ヲ減セサルヲ得ス然ル片ハ降
テ重懲役ノ刑トナル之ニ反シテ減輕ヲ先
ニスル片ハ前ノ如ク減シテ重懲役ニ降ル

可キ者モ後ニ加重スルヲ得ルヲ以テ一等
ヲ加ヘ有期徒刑ニ處セサルヲ得ス故ニ再
犯無期徒刑ニ該ル者ハ加重ヲ先ニスル片
ハ犯人ノ益トナル者トス

第二例 即加重ヲ先ニシテ犯人ノ損ト

有期重罪ノ刑ニ該ル者ハ一等又ハ二等ヲ
減スル片ハ加重ヲ先ニスルモ又減輕ヲ先
ニスルモ互ニ損益ナシト雖モ若シ減シテ
輕罪ノ刑ニ降ル者ハ輕罪ノ刑ハ加ヘテ重
罪ニ入ル、一ヲ得サルヲ以テ加重ヲ先ニ
スル片ハ犯人ノ損トナル即チ重懲役ニ該
ル者先ツ一等ヲ加フレハ有期徒刑ト為ル
ヲ以テ其犯人ヲ宥恕シテ二等ヲ減スルモ

輕懲役ニ止ル者トス若シ減輕ヲ先ニスル
片ハ二等ヲ減スレハ輕罪ニ降ルヲ以テ後
ニ加等スルモ重罪ニ入ル、一ヲ得サル者
トス加重ヲ先ニシテ犯人ノ損トナル場合
即チ是ナリ

第三例 即チ加重ヲ先ニシテ犯人ニ益ア
ルノ例
本刑五年以下ノ輕罪ニ該ル者ハ三等減迄
ハ加重ヲ先ニスルモ又減輕ヲ先ニスルモ
互ニ損益ナシト雖モ減シテ違警罪ニ降ル
者ハ違警罪ノ刑ハ加ヘテ十二日ニ至ルヲ
得ルヲ以テ加等ヲ先ニスル片ハ犯人ノ益
トス何トナレハ輕罪ヲ減盡シテ違警罪ニ
降ス片ハ十日以下ノ拘留ニ處スル者ナリ

下雖モ若シ先ニ減シテ違警罪ニ降ル者ハ
一等ヲ加フル片ハ十二日ニ至ル迄加重ス
ル一ヲ得レハナリ

第四例 即チ加重ヲ先ニシテ犯人ニ益ア
ルノ例
特別ノ加重ヲ以テ五年以下ノ刑ニ一等ヲ
加ヘ六年三月以下ノ重禁錮ニ該ル者若シ
再犯ナル片ハ又一等ヲ加重セサルヲ得ス
此時ニ際シ加重ヲ先ニシ減輕ヲ後ニスル
時ハ先ツ加ヘテ七年九月二十二日以下ノ
刑トナルト見做サ、ルヲ得ス然ルニ輕罪
ノ刑ハ加ヘテ七年ニ過ル一ヲ得サルヲ以
テ若シ此犯人ヲ減輕スル片ハ七年以下ヲ
四等ニ別テ減輕セサルヲ得ス故ニ此犯人

一等ヲ減輕スル片ハ七年ノ四分ノ一ハ一年九月ト為ルヲ以テ五年三月以下ノ重禁錮ニ處ス可キ者トス之ニ反シテ本刑六年三月以下ナルヲ以テ減輕ヲ先ニスル片ハ先ツ一等ヲ減スレハ六年三月ノ四分ノ一ハ一年六月二十二日餘トナルヲ以テ四年八月七日以下ノ刑トナル若シ之ニ一等ヲ加フル片ハ本刑ト同シク六年三月以下ノ刑トナルヲ以テ此場合ニ臨メハ又加重ヲ先ニスルヲ犯人ノ益トス

例ヲ掲シレハ如此結果ヲ生スルヲ以テ判官ノ異ナル毎ニ加重減輕ヲ前後スル片ハ同シ身分ノ者ニシテ同シ罪ヲ犯ス片第一

例ニ就テ謂ヘハ甲ノ判決ハ加重ヲ先ニスルヲ以テ犯人ノ益トナリ乙ノ判決ハ減輕ヲ先ニスルヲ以テ犯人ノ損トナリ又第二例ニ就テ謂ヘハ甲ノ判決ハ減輕ヲ先ニスルヲ以テ犯人ノ益トナリ乙ノ判決ハ加重ヲ先ニスルヲ以テ犯人ノ損トナル等ノ不權衡ヲ生スルニヨリ總テノ犯人ニ對シテハ加重ヲ先ニスルモ亦減輕ヲ先ニスルモ其損益相半スト雖モ但稍々加重ヲ先ニスルノ犯人ニ益アルヲ以テ加重ヲ先ニスルヲニ定メタル所以ナリ

第七章 數罪俱發
第百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪

以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處断ス
重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト為シ刑
期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト為ス
輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處断
ス

數罪俱ニ發スレハ一ノ重キ刑ニ從テ餘罪
ハ論セストスル法ハ表面ヨリ之ヲ見ル片
ハ頗ル道理ニ背反スル者ニ似タリ且ツ或
ル論者ハ數罪俱ニ發スレハ盡ク其刑ヲ科
ス可シト論スト雖モ種々ノ微罪ヲ集合セ
テ一ノ大罪ト見做シ重キ刑ヲ以テ之ヲ罰
スルハ眞ニ道理ニ適セサル者トス何トナ

レハ其犯シタル罪固ト微罪ナルヲ以テ譬
ヘ數々之ヲ犯スニ至ルモノ大罪ニ比ス
レハ自カラテ公害ヲ為スレ微ク且ツ本犯自
己ノ道義心ヲ損スル薄ケレハナリ且又
期限アル刑ハ盡ク併科スルヲ得ルモ若シ
死刑又ハ無期徒刑ノ如ク期限ナキ刑ニ
至テハ到底他ノ刑ト併科スルヲ得サルヲ
以テ爾餘ノ刑ヲ併科スルハ其權衡ヲ失フ
ニ至ル者ナリ又各國刑法ニ於テモ稍々併
科ニ似タル法アリト雖モ數罪ヲ併セテ幾
年ニ過ルヲ得ス又其數罪中ノ最モ重キ刑
ノ長期ニ處ス可シ等ノ定限アリテ盡ク數
罪ヲ併セ科スルノ法ヲ用ヒタル者ヲ見ス

其上數罪俱發スレハ一ノ重キニ從テ處断スルハ本邦從來慣用ノ法ナルヲ以テ本條二罪以上俱ニ發スレハ一ノ重キニ從テ處断スルヲニ定メタル所以ナリ

重罪ノ刑ハ定役アル者ト定役ナキ者トノ二種アリト雖モ其刑期錯綜セス各其定限アリテ輕重ノ等級判然タルヲ以テ先ツ其定役ノ有無ニ論ナク刑期ノ長キ者ヲ重シト定メタリ故ニ輕懲役ハ定役アリト雖モ重禁獄ニ比スレハ其刑期短キヲ以テ此二罪ノ俱發スル片ハ一ノ重禁獄ニ從テ處断スル者トス但タ其刑期ノ等シキ者ニ至テハ定役アル刑ヲ定役ナキ刑ヨリ重シトセ

サハヲ得ス故ニ同期限ナル懲役禁獄ノ俱發スル片ハ一ノ懲役ニ從テ處断スル者トス

輕罪ノ刑タル禁錮ハ固ト十一日以上五年以下ノ刑ナリト雖モ處刑ノ各本條ニ於テハ例ヘハ二月以上四年以下ノ重禁錮又ハ六月以上三年以下ノ重禁錮ニ該ル刑アリ及ヒ十一日以上一月以下ノ重禁錮又ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ該ル刑等アリ各其刑期ニ少區別アリテ其長期短期互ニ相錯綜シタルヲ以テ此刑ニ就テ其輕重ヲ定ムルヲ殆ント難キ者トス故ニ此刑ニ該ル罪ノ俱發スル片ハ但其所犯情狀ノ重キ

本解二十四以上二百
四以下ノ罰金ハ十一
日以上一月以下ノ
禁錮ヨリ重シト為
セリ故ニ前ニ發シタ
ル罪五十四ノ罰金
ニシテ後ニ發スル所
ノ罪二十日ノ禁錮

該ルハハ五十四ヲ
禁錮ニ折算スレハ
五十日ニ該ルヲ以テ
後發ノ禁錮ハ論セサ
ルト明白ナリ若シ又
後發ノ罪禁錮二月
ニ該レハ五十日ヲ扣除
シ十日ノ禁錮ヲ貼
断スレハ決シテ不權衡
ナシ止テ前發ノ罪二
圓三四ノ罰金ニシテ
後發ノ罪ハ八日九日ノ
拘留ニ該ルハ不權
衡ナカラ後發ノ違警
罪ハ輕シトシテ論セサ
ル手

者ニ從テ處断スト定メサルヲ得ス故ニ其
數罪ノ盡ク重禁錮若クハ輕禁錮ニ該ル者
ハ其中ニ就キ最モ情狀ノ重キ一ノ罪ニ從
テ處断スルノミナラス重禁錮ハ固ト輕禁
錮ヨリ重カル可シト雖モ重禁錮ニ該ル罪
ト輕禁錮ニ該ル罪ト俱發スル片モ又此例
ニ從ヒ重禁錮ノ刑期短ク且ツ重禁錮ニ該
ル罪ノ情狀輕キ者ハ其重禁錮ヲ棄テ一ノ
輕禁錮ニ從テ處断セサルヲ得ス
又罰金ハ固ト禁錮ヨリ重キ刑ニ非スト雖
モ數多ノ罰金ヲ科スル罪ハ僅カノ禁錮ヲ
科スル罪ヨリ其情狀重カル可キ者アリ且
又一概ニ禁錮ヲ科スル罪ハ罰金ヲ科スル

罪ヨリ重シト謂フヲ得ス例ハ第百八十
條及ヒ第二百五十條ノ如ク五圓乃至五十
圓ノ者アリ二十圓乃至二百圓ノ者アリ右
ノ如キ所犯情狀ノ重キ罪ト十一日以上一
月以下又ハ十五日以上二月以下ノ禁錮ニ
該ル罪ト俱發スル片ハ又其情狀ノ重キ罰
金ノ刑ニ從テ處断セサルヲ得サル者ナリ
第百一條 違警罪ニ罪以上俱ニ發シタル時ハ
各自ニ其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ
發シタル時ハ一ノ重キニ從フ
違警罪ハ其刑輕クシテ各自ニ之ヲ科スル
モ甚シキ刑ニ至ラス且ツ此罪ハ最モ犯シ
易キ罪ナルヲ以テ之ヲ併科スルニ非サレ

刑罰
法

ハ各種ノ規則ヲ遵奉セシムルニ足ラス然
ルノミナラス若シ此刑ヲ併科セス一ノ重
キニ從テ餘罪ヲ除棄スト定ムル片ハ其刑
輕キヲ以テ翻テ多クノ規則ヲ犯シ犯人自
己ノ利益ヲ圖ラントスル弊アリ因テ此罪
ノ俱發スル片ハ各自ニ其刑ヲ科スル者ト
ス然リト雖モ若シ重罪輕罪ト俱ニ發スル
片ハ一ノ重輕罪ノ刑ノ其犯人ヲ懲戒スル
ニ足ルヲ以テ違警罪ハ論セサル者トス

第百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪
後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セ
ス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ
後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該

本項モ亦權衡宜キ
者ニ非ラス再犯ノ
有無ニ因テ前發ノ
刑ヲ後發ノ刑ニ算入
スルト否サルトノ不同
ヲ生シ且ツ時トシテ
ハ再犯ノ罪モ除棄セ
ラルヲ以テナリ他日
ノ再議ヲ仰カントス

リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照
シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス
若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪
再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較
シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス
本條第一項ハ二罪以上ヲ犯シタル者同時
ニ其罪發セスシテ前後兩度ニ其罪ノ發シ
タル片ノ處分ヲ示シタル者ナリ前後兩度
ニ其罪發覺スルモ重罪輕罪ニ係ル者ハ前
第百條ノ例ニ從ヒ重キ一罪ニ從テ處断セ
サルヲ得サル者ナリ故ニ前ニ發シテ處断
ヲ經タル罪重クシテ後ニ發スル所ノ罪輕
ク若クハ等シキ者ハ其罪ヲ論セスト雖モ

若シ後ニ發スル所ノ罪前ニ發スル所ノ罪ヨリ重キ時ハ其後ニ發スル所ノ重キ罪ヲ科セサルヲ得ス然ルニ前ニ發スル所ノ罪輕シト雖モ一ノ重キニ從ヒ餘罪ハ除棄スル法ナルヲ以テ其前ニ發スル所ノ刑ヲ後ニ發スル所ノ刑ニ通算シ後ニ發スル所ノ刑ヨリ扣除セサルヲ得ス故ニ前ニ發スル所ノ罪四年ノ禁錮ニシテ後ニ發スル所ノ罪七年ノ懲役ニ該ル片既ニ前ニ發スル所ノ禁錮三年ヲ經過シタル者ハ其三年ヲ後ニ發スル所ノ七年ノ刑ニ通算シ更ニ四年ノ懲役ヲ執行セシムル者トス爾餘ノ刑皆此ノ例ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略セリ

此辨明二事本條明文ナシ一應說ヲ進メントス

本刑法罰金科料ニ該ル者納完スルヲ能ハサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ禁錮拘留ニ換フルヲ以テ前ニ發シタル罪罰金科料ニシテ已ニ納完シタル者後ニ發スル罪懲役禁錮ノ類ニ該ル片ハ其懲役禁錮ヨリ折算ス可キ日數ヲ扣除セサルヲ得ス又後ニ發スル所ノ罪同シク罰金ニ該ル片ハ直テニ其刑ニ通算スルノミ然リト雖モ後發ノ罪無期ノ刑ニ該ル片ハ其金額ハ犯人ニ還付セサルヲ得ス此レ自カラ法理ノ然ラシムル所ノ者ナリ

第二項ハ二罪以上ヲ犯シタル者先ツ其一罪發覺シ既ニ處断ヲ經ルノ後再ヒ罪ヲ犯

刑法

其再犯ノ罪ヲ判決スルニ當リ未タ發セ
サル所ノ初犯ノ罪ノ發覺シタル片ノ處分
ヲ示シタル者ナリ此時ニ於テモ亦其初犯
ノ罪ト再犯ノ罪トヲ比較シテ一ノ重キニ
從テ處断ス可キ者トス故ニ若シ再犯ノ罪
初犯ノ罪ヨリ重キ片ハ其再犯ノ罪ニ從テ
處断スルニヨリ前ニ發スル所ノ刑ヲ此ノ
再犯ノ罪ニ通算スルヲ得サルハ更ニ論ヲ
待タスト雖モ然ルニ其再犯ノ罪輕クシテ
後ニ發スル所ノ初犯ノ罪重キ片ハ其初犯
ノ罪ニ從テ處断ス可キヲ以テ前項ノ例ニ
依レハ前ニ發スル所ノ刑ヲ通算セサルヲ
得スト雖モ此時ニ臨メハ前項ノ如ク前ニ

發スル所ノ刑ヲ通算スルヲ得サル者トス
何トナレハ若シ前ニ發スル所ノ刑ヲ通算
シテ此後ニ發スル所ノ刑ヨリ扣除スル片
ハ輕キヲ以テ除棄セラレタル再犯ノ刑ヨ
リ其刑期短キニ至ルヲ以テナリ例ヘハ前
發スル所ノ罪禁錮三年ニシテ未タ發セサ
ル初犯ノ罪禁錮四年ニ該ル者ト再犯ノ罪
禁錮加ヘテ二年半ニ該ル者ト俱ニ發スル
片ハ初犯ノ罪重キヲ以テ其初犯ノ罪ニ從
テ處断スルモ前ニ發スル所ノ刑禁錮三年
ヲ扣除スル片ハ實際一年ノ禁錮ニ該ルヲ
以テ再犯ノ罪禁錮二年半ヨリ輕キニ至ル
因テ前ニ發スル所ノ刑ハ通算セサル者ト

ス又前ニ發スル所ノ罪十年ノ重懲役ニシ
テ未タ發セサル所ノ初犯ノ罪有期徒刑ニ
該ル者ト再犯ノ罪輕懲役ニ該ル者ト俱ニ
發スル片ハ再犯ノ輕懲役ハ一等ヲ加ヘ重
懲役ニ處スルモ初犯ノ罪ヨリ輕キヲ以テ
初犯ノ罪ニ從テ處断スト雖モ前ニ發スル
所ノ懲役十年ヲ扣除スル片ハ假令有期徒
刑ノ長期十五年ヲ宣告スルモ實際五年ノ
徒刑ニ該ルヲ以テ再犯ノ重懲役ヨリ輕キ
ニヨリ前ニ發スル所ノ刑ト通算セサル者
トス是レ二罪俱發ノ變例ナリ

第百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト
雖モ其沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルハ人間交際
上ニ於テ一大緊要ノ事トス故ニ其損害ヲ
加ヘタル所為ノ罪トナル片其賠償ヲ免カ
ルハ一ヲ得サルノミナラス其罪ヲ免サレ
又ハ全ク罪ト為ラサル所為ニ因リ加ヘタ
ル損害モ亦其賠償ヲ免カルハヲ得サル者
ナリ又沒收ス可キ物件ハ第四十三條第四
十四條ニ因レハ禁制ノ物件及ヒ犯罪ノ用
ニ供シタル自己所有ノ物件並ニ犯罪ニ因
テ得タル物件ニシテ所有主ノ知レサル者
トス禁制ノ物件ハ世間ニ存在セシム可カ
ラサル者ナリ又犯罪ノ用ニ供シタル物件
ハ若シ其犯人ニ續テ之ヲ所有セシムル片

ハ再ヒ罪ヲ犯スニ至ルモ亦知ル可カラス
且ツ犯罪ニ因テ得タル物件ヲ其犯人ニ所
得セシムル件ハ罪ヲ犯シテ利益ヲ得ルニ
至ル者ナリ因テ數罪俱ニ發シ一ノ重キニ
從フ件ト雖モ贓物ノ還給損害ノ賠償并ニ
裁判費用沒收ハ各本法ニ從フテ定メタ
ル所以ナリ

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆
正犯ト為シ各自ニ其刑ヲ科ス
本章ハ全ク從來ノ法ト違ヒ西洋各國ノ法

ニ擬シ新タニ創ムル所ノ者ニ係ル從來ノ
法ハ數人ニテ罪ヲ犯ス件ハ造意者一人ヲ
以テ首ト為シ餘人ハ皆從ト為シ首タル者
ノ刑ニ一等ヲ減シ但各本條ニ於テ首從ヲ
分タス罪ヲ科スト掲ケタル者并ニ越獄犯
姦懲役人逃ル等身自カラ犯スヲ以テ罪ヲ
得ルニ係ル者ハ首從ヲ分タス一体ニ本刑
ヲ科スル法ナリシ本章數人共犯ノ件ハ先
ツ已レ自カラ現ニ犯罪ニ着手シタル者ヲ
以テ正犯ト為シ現ニ犯罪ニ着手スルニ非
ス其正犯ヲ間接ニ補助シテ犯罪ヲ容易ナ
ラシメタル者ヲ附從ト為シ正犯ニ一等ヲ
減スルテ定メタリ

故ニ其正犯タル者一人ニ止ラス二人以上
共ニ同意連合シテ現ニ罪ヲ犯シタルハ
造意共謀ヲ分タス皆正犯ト為シ其正犯中
宥恕減輕酌量減輕及ヒ身分ニ因リ特別ニ
加重減輕スル者等ヲ除クノ外共ニ同一ノ
刑ニ處ス可キ者トス右ハ一人ニテ一罪ヲ
犯スモ二人以上ニテ一罪ヲ犯スモ其罪ヲ
犯ス心ト人ノ被ムル害トニ於テハ同一ナ
ルヲ以テナリ且ツ時トシテハ二人以上ニ
テ罪ヲ犯セハ一人ニテ犯スヨリ其公害ヲ
為スノ多キヲ以テ犯人ノ多數ニ因リ特別
ニ其刑ヲ加重スルノアリ然ルニ同シク正
犯ノ内ニ於テモ共ニ人ヲ毆打スルニ該リ

一人臨時殺意ヲ起シ故殺ヲ為ス者アリ又
共ニ強竊盜ヲ行フニ該リ一人兇器ヲ携帶
スル者アル等ニテ餘人ノ其故殺ヲ為シ又
ハ兇器ヲ携帶スルノヲ知ラサル者ハ同シ
ク正犯ナリト雖モ故殺及ヒ兇器ヲ携帶シ
テ強竊盜ヲ行フタル罪ニ坐セス止テ通常
ノ毆打殺傷并ニ強竊盜ノ罪ニ坐スルノニ
本條二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正
犯ナルヲ以テ同シク處断ス可キニ因リ同
一ノ刑ニ處スト記載ス可キヲ各自ニ其刑
ヲ科スト掲ケタルハ同シ身分ニシテ同シ
情状ヲ以テ同シ罪ヲ犯シタルハ固ヨリ
同一ノ刑ニ處スルハ論ヲ待タスト雖モ右

ニ掲ケル如ク其正犯ノ内宥恕減輕酌量減輕自首減輕并ニ身分ニ因テ特別ニ加重減輕ス可キ者等アルヲ以テ同一ノ刑ニ處スト掲ケス各自ニ其刑ヲ科スト定メタル所
以ナリ
右ニ掲ケタル理由ナルヲ以テ共ニ罪ヲ犯シタル正犯ハ同一ノ刑ニ處スルヲ本則ト為スト雖モ内亂ニ關スル罪兇徒聚衆ノ罪及ヒ貨幣ヲ偽造變造スル補助ヲ為ス者并ニ二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者等ハ又此ノ正犯ノ變例トス

第百五條 詐欺脅迫贈與結約威權其他故意ヲ以テ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル

者ハ亦正犯ト為ス

本條ハ已レ自カラ犯罪ニ着手セスト雖モ詐偽脅迫贈與結約威權其他罪ヲ犯サシムルノ意ヲ以テ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ヲ罰スルヲ掲ケタル者ナリ此等ノ事ヲ以テ人ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシムル者ハ其惡意ヲ構造スルヲ現ニ罪ヲ犯ス者ニ異ナルナシ且ツ此等ノ事ヲ以テ人ニ罪ヲ犯サシメタル者ヲ正犯ト為シ處断スルハ若シ此教唆ナキ片ハ現ニ罪ヲ犯ス者或ハ其事ヲ猶豫シ又ハ中コ口止ムルヤモ知ル可カラスト雖モ唯タ斯ノ教唆アルニ因リ畢ニ意ヲ決シテ其罪ヲ犯スニ至

ルヲ以テ現ニ犯罪ニ着手セサルモ正犯ト
為シ處断スル所以ナリ
然ルニ人ヲ教唆スト雖モ若シ其教唆ヲ受
ケシ者罪ヲ犯サ、ル片ハ他ニ法律規則ヲ
設テ別ニ教唆ニ止ル者ヲ罰スルニ非サレ
ハ本刑法ニ於テハ唯タ其教唆ニ止ル者ヲ
罰スルヲ得サル者トス

第百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス
可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホス
トヲ得ス
本條正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可
キ片トハ例ヘハ二人以上ノ正犯ノ中一人
再犯ニ係ル者アリ又二人以上共ニ往來通

信ヲ妨害スルニ該リ一人其事務ニ關スル
官吏アリ又二人以上共ニ人ヲ毆打創傷ス
ルニ該リ一人其毆打創傷ヲ受クル者ノ子
孫アル等ノ片ノ如シ再犯者官吏并ニ子孫
等ハ各其身分ニ因リ刑ヲ加重シテ處断ス
可シト雖モ他ノ正犯從犯并ニ教唆者ハ加
重ス可キ身分ニ非サルヲ以テ假令其共犯
中ニ加重ス可キ身分ノ者アルヲ知ルモ亦
通常ノ刑ニ從ヒ處断ス可キ者トス
本條ハ西洋各國ノ法ニナキ所ノ者ニシテ
畢竟舊法ヨリ取用スル所ノ者ナリ甚タ道
理ニ適シタル法ト謂フ可シ

第百七條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ

刑法

時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト為ス
本條ハ人ノ住居ヲ犯ス罪并ニ強竊盜ノ罪
等ヲ教唆シタル者ヲ云フ教唆者ハ現ニ罪
ヲ犯ス者ニ非サレハ假令正犯ト為シ其罪
ヲ論スルモ其現ニ罪ヲ犯ス場所ニ非サル
ヲ以テ二人以上ノ内ニ算入スルハ甚タ道
理ニ適セサル者トス故ニ教唆者ヲ算入シ
テ人ノ多數ト為ス
以ナリ然ルニ初メ其犯罪ヲ教唆スルニ該
リ二人以上ニテ共ニ罪ヲ犯ス
唆シタル件ハ其加重ノ刑ヲ免ル、
事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當

第百八條

リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ
犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示
シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆
者ヲ處断ス
一 所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止タ其
指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス
二 所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行
フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス
本條モ亦舊法ヨリ取用スル所ノ者ナリ其
教唆ニ乘シ指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又
ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタ
ル所ト殊ナル件トハ例ヘハ竊盜ヲ為ス可

シト人ヲ教唆シタル件其教唆ヲ受ケシ者
竊盜ヲ為スニ不便アルヲ以テ強盜ヲ為シ
又強盜ヲ為ス可シト教唆シタル件其教唆
ヲ受ケシ者強盜ヲ為サスシテ竊盜ヲ為シ
又脅迫ノ罪ヲ教唆シタル件其教唆ヲ受ケ
シ者毆打創傷ノ罪ヲ犯シタル件ノ如シ唯
ニタ其教唆ノ効力ヲ論スル者ニシテ輕キ罪
ヲ教唆シタルニ教唆ヲ受ケシ者重キ罪ヲ
犯シタル件其重キ刑ニ處セサルノミナラ
ズ假令重キ罪ヲ教唆スト雖モ教唆ヲ受ケ
シ者輕キ罪ヲ犯シタル件ハ亦其輕キ刑ニ
處ス可キ者トス然ルニ初メ人ヲ教唆シテ
罪ヲ犯サシメントスルニ其教唆ヲ受ケシ

者其教唆ニ乘セサル件ハ其罪ナキト更ニ
論ヲ待タスト雖モ一旦其教唆ニ乘シ一ノ
罪ヲ犯サント決心シ中コ口其罪ヲ犯スノ
意ヲ變シ例ヘハ詐偽取財ノ罪若クハ誣告
ノ罪ヲ教唆スルニ其罪ニ關係ナキ強姦又
ハ貨幣偽造ノ罪等ヲ犯シタル件モ亦其罪
ヲ論セサル者トス右ハ全ク其教唆ニ乘シ
テ罪ヲ犯シタルト謂フヲ得サレハナリ本
條ハ其教唆ニ乘シテ罪ヲ犯シタルヤ如何
ヲ審案スルト最モ必要ナルトトス

第二節 從犯

第百九條 重罪輕罪ヲ犯スルヲ知テ器具ヲ給
與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所為ヲ以テ

正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ
從犯ト為シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現
ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ片ハ止
タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス
本條ハ前ニ解明シタル如ク正犯ヲ間接ニ
補助シタル者ヲ云フ其器具ヲ給與シ又ハ
誘導指示シ其他豫備ノ所為ヲ以テ犯罪ヲ
容易ナラシメタル者トハ皆現ニ其犯罪ニ
着手スルニ非ス但其正犯ヲ間接ニ補助シ
タル者ナルヲ以テ正犯ノ刑ニ一等ヲ減シ
テ處断スル者トス本條誘導指示ノ文アリ
ト雖モ固ト已レ自カラ發意シテ人ヲ教唆
スル者ニ非ス唯タ罪ヲ犯サントスル所ノ

正犯ノ意ヲ受ケ僅カニ誘導指示スル者ニ
シテ其情殆ント正犯ニ使用セラレシ者ノ
如シ例ヘハ阿片烟ヲ吸食セントスル者ニ
其吸食ノ方法ヲ教ヘシ者又ハ詐偽取財ノ
罪ヲ犯サントスル者ノ頼ミヲ受ケ詐偽ノ
證書ヲ造リ若クハ其文案ヲ教示シタル者
又ハ盜罪ヲ犯サントスル者ノ頼ミヲ受ケ
屋後ヨリ潛入ス可シ前面ハ戸ノ鎖鑰固フ
シテ入ル可カラスト指示シタル者又ハ強
姦ヲ行ハントスル者ノ頼ミヲ受ケ婦女ヲ
欺キ路上ニ出シタル者又ハ毒殺ヲ行ハン
トスル者ノ頼ミヲ受ケ其毒藥ヲ買與セシ
者ノ類ヲ云フ右ノ如ク正犯ニ器具ヲ給與

シ又ハ誘導指示シテ犯罪ヲ容易ナラシム
ルト雖モ若シ正犯ノ現ニ行フ所ノ罪從犯
ノ誘導指示シタル所ノ罪ヨリ重ク且ツ其
指示シタル以外ノ罪ヲ犯シタル片ハ前條
ノ例ニ從ヒ止タ其知テ誘導指示シタル罪
ニ照シテ一等ヲ減スル者トス

第一百十條 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯
ト為ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス
正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ
從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルヲ得ス
本條前第六條ノ反對ヲ云フ者ニシテ第
百六條ハ身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者正
犯トナル片ヲ掲ケ本條ハ身分ニ因リ刑ヲ

加重ス可キ者從犯ト為ルヲ掲ケタル者
ナリ身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト
為ル片ハ正犯ハ通常ノ刑ニ處スルト雖モ
通常ノ從犯ヨリ固ト重クシテ處断ス可キ
者ナルヲ以テ其重キニ從ヒ一等ヲ減スル
者トス此ノ場合ニ臨メハ從犯ノ受ク可キ
刑ハ固ト起科ノ本刑ト定ム可カラサルニ
ヨリ先ツ其從犯正犯タル片ハ如何ト假リ
ニ其刑ヲ擬シ其正犯タル片ノ刑ニ一等ヲ
減シテ處分ス可キヲ以テ例ヘハ正犯四年
以下ノ禁錮ニ該ル片ハ通常ノ從犯ナレハ
直チニ四年以下ノ刑ニ一等ヲ減シ三年以
下ノ禁錮ニ處ス可キト雖モ此ノ身分ニ因

リ加重ス可キ者從犯トナル片其從犯若シ
各本條ニ於テ一等ヲ加フル者ナル片ハ先
ツ其四年以下ノ刑ニ一等ヲ加ヘ五年以下
ノ禁錮ニ擬シ其五年以下ノ禁錮ニ一等ヲ
減シテ處断スル者トス
又其正犯ニ宥減輕并ニ不論罪ニ該ル者
アリト雖モ從犯ノ罪ハ正犯ト同シク減免
スルヲ得ス前條并ニ前項ノ例ニ從ヒ正犯
ニ一等ヲ減スル者トス故ニ通常ノ從犯ナ
レハ正犯ノ受ク可キ刑ニ直チニ一等ヲ減
シ身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ從犯ナル片
ハ重キニ從ヒ一等ヲ減スル者トス

第九章 未遂犯罪

第百十一條 罪ヲ犯サシテ謀リ又ハ其豫備
ヲ為スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條
別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セ
ス

未遂犯罪トシテ罰ス可キ所ノ者ハ未タ其
事ヲ遂ルニ至ラサルモ已ニ其事ノ外面ニ
發露シテ人ニ損害ヲ加フルノ形状アル者
トス抑モ人ノ思想ハ無形ニ屬スルヲ以テ
假令中心惡念ヲ生シ其方法ヲ思考スルモ
其未タ外面ニ發露セサル者ハ何ヲ以テ之
ヲ其罪ヲ犯サントスルノ證據アリトスル
ヲ得ンヤ然ルノミナラス今其惡念ノ一步

本條ヲ此處ニ掲ケ
置ク時ハ後ニ記スル
輕罪未遂犯罪ノ
條ト等シク國事犯
ノ外ニテモ「本條未遂
犯罪中ニ在ルヲ以テ」
豫備ヲモ罰スル條
アル様見ユルニヨリ本
條ヲ解明スルニ該レ
ハ本條ハ國事犯ノミ
ニ用フルヲ解明シ
置カントス

ヲ進メ既ニ罪ヲ犯サントスル意ヲ決シ其
豫備ヲ為スニ至ルモ未タ其事ヲ行ハサル
間ハ亦其豫備ノ形状アルヲ以テ罪ヲ犯ス
者ト想像シテ刑ヲ加フルヲ得サル者トス
何トナレハ通常犯罪ノ豫備ハ人間日常為
ス所ノ事ニシテ犯罪ノ豫備ニ非ス自家ノ
用ニ供セントスルモ謀ラレサルヲ以テナ
リ例ヘハ夜中梯子ヲ買フ者アリ盜罪ノ豫
備ト為シ刑ヲ加ヘントスル乎火災豫防ノ
為メ買フ者ニシテ盜ヲ為スニ非サルヤモ知
ル可カラス又兵器ヲ懷ニシテ歩行スル者
アリ謀殺ノ豫備トシテ刑ヲ加ヘントスル
乎護身ノ為メナルヤモ知ル可カラス又鋤

鋤ヲ携ヘ墓地ヲ徘徊スル者アリ墳墓ヲ發
掘スルノ豫備ト為シ刑ヲ加ヘントスル乎
耕耘ノ歸路ニ非サルヤモ亦知ル可カラス
又火器ヲ携ヘ薄暮人ノ戶外ニ立ツ者アリ
放火ノ豫備ト為シ刑ヲ加ヘントスル乎是
レ亦買テ歸ル所ノ者ニ非サルヤモ知ル可
カラス若シ此等ノ事ヲ以テ一々人ヲ捕縛
シテ刑ヲ加フル件ハ其冤罪ヲ被ムル者多
クシテ實ニ人民其生ヲ安スルヲ得サル
ニヨリ通常ノ罪ハ未タ其事ヲ行ハサル者
ハ其刑ヲ加ヘサル者トス但シ國事ニ關ス
ル罪ニ至テハ通常ノ罪ト違ヒ國家ノ安危
ニ關スル者ニシテ若シ一旦其事ヲ擧ケタ

ル件ハ國家紛亂シ人民塗炭ニ陥リ其禍實ニ測ル可カラサルニ至ル者ナリ又此罪ハ其犯サントスルノ意ヲ決シ陰謀協議ヲ為スニ於テハ一人一己ノ惡念ヲ蓄フル比ニ非ス其陰謀協議スル所人間日常為ス所ノ事ニ非スシテ或ハ誓書ヲ作り暗號ヲ製シ又ハ檄文ヲ廻スノ類ニシテ犯罪ノ端緒タルヲ明白シ易キ者ナルヲ以テ其豫備ヲ為スニ至ルヲ待タス既ニ陰謀協議シタルヲ發覺スル件ハ直チニ其刑ヲ加フル者トス本條別ニ刑名ヲ記載シ云々ハ此國事ニ關スル罪ノ變例ヲ掲ケタル者ナリ

第百十二條 罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行

フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

未遂犯罪ハ前條ニ解明シタル如ク未タ其事ヲ遂ケスト雖モ已ニ其事ノ外面ニ發露シテ人ニ損害ヲ加ヘントシタル者ナリ故ニ其罪ハ免カル、ヲ得サル者トス然ルニ此ノ未遂犯罪トシテ罰ス可キ者ハ左ノ二類ニ區別シ其區別ニ從ヒ輕重ノ等級ヲ定メ其刑ヲ分科セサルヲ得ス然ラサレハ其權衡宜シキ者ニ非ス何トナレハ其犯罪ノ初ヨリ其犯罪ヲ遂ルニ至ル迄種々ノ情狀アリテ自カラ其間ニ輕重ノ區別存在スル

ヲ以テナリ例ハ人ヲ銃殺セント欲シ已
ニ手銃ヲ以テ之ニ向フタルニ他人傍ヨリ
其手ヲ執ヘ發放スルヲ得サラシメタル時
又刀ヲ以テ人ヲ殺サントスルニ已ニ其刀
ヲ上ケ一下両断ト為サントスルニ臨ミ傍
人ニ阻止セラレ其刀ヲ下スヲ得サル時
又毒藥ヲ食物ニ和シ人ニ與ヘントスルニ
臨ミ其人満腹ノ故ヲ以テ其食物ニ手ヲ就
ケサルカ若クハ他人ノ阻止スルニ因テ其
毒藥ヲ服セサル時又ハ盜罪ヲ行ハントシ
テ人ノ家屋ニ潛入シ正ニ財物ヲ取り去ラ
ズトスルニ臨ミ事主ニ覺知セラレ其財物
ヲ得スシテ逃去シタル時其他總テ犯罪ノ

半途ニ於テ意外ノ障礙ニ因テ其罪ヲ遂ケ
サル者ハ已ニ其事ヲ行フト雖モ未タ其所
為ヲ盡サ、ルヲ以テ第一類ト為シ已ニ遂
ケタル者ニ二等又ハ三等ヲ減スルトナ
シ前例ニ反シテ人ヲ銃殺セントシタル者
已ニ其銃ヲ放テタルニ何ソ圖ラシ其彈丸
中ラサル時又ハ毒藥ヲ人ニ與ヘタルニ其
人直チニ消毒法ヲ行ヒ辛クシテ其死ヲ免
カレタル片又ハ繩ヲ以テ人ノ首ヲ絞リ已
ニ死シタルト思ヒ其所ヲ逃去セリ跡ニ於
テ他人其繩ヲ解キ蘓生シタル時又ハ盜罪
ヲ犯シ假令事主ニ直チニ取還セラレ、モ
一旦其財物ヲ得タル時等凡此等ノ事ハ已

二其所為ヲ盡シタルヲ以テ意外ノ舛錯ニ
因リ遂ケサル者トシ第二類ニ入レ巳ニ遂
ケタル者ニ一等又ハ二等ヲ減スルノ定
ム可シト論スル者アリ誠ニ能ク犯罪ノ情
状ヲ探リタル者ト謂フ可シ既ニ司法省上
申ノ法案ニ於テモ右ノ區別ニ從ヒ第一類
ヲ重罪ヲ犯サントシテ巳ニ其事ヲ行ヒ未
タ遂ケサルノ際本犯意外ノ障礙ニ因リ之
ヲ中止シタル片ハ巳ニ行フテ事ヲ遂ケタ
ル者ノ刑ニ二等又ハ三等ヲ減スト定メ第
二類ヲ重罪ヲ犯サントシテ巳ニ其所為ヲ
盡スト雖モ事後意外ノ舛錯ニ因リ其目的
ヲ遂ケサル片ハ巳ニ遂ケタル者ノ刑ニ一

等又ハ二等ヲ減スト定メタリ
然ルニ總テノ犯罪ニ就キ考察スル片ハ第
一類ニ入ル可キ犯罪ノ半途ニ於テ意外ノ
障礙ニ因リ其罪ヲ遂ケサル者ハ多クアル
可シト雖モ第二類ノ如キ巳ニ其所為ヲ盡
シタル後意外ノ舛錯ニ因テ其罪ヲ遂ケサ
ル者ノ如キハ謀殺毒殺ノ外多クアル可キ
者ニ非ス且又其謀殺ニ於テモ刀ヲ以テ殺
サントスルト銃ヲ以テ殺サントスルト同
シク人ヲ殺サントシタル者ナルニ其刑ノ
權衡ヲ得サル者アリ例ヘハ刀ヲ以テ人ヲ
殺サントシ巳ニ其刀ヲ下スト雖モ若シ其
刀敵手ノ躰ニ觸レズ假令躰ニ觸ルモ其

傷輕クシテ未夕敵手ヲ殺スヲ得サルノ際
他人ニ阻當セラレ終ニ其罪ヲ遂ケサル片
ハ意外ノ障礙ニ因テ遂ケサル者トナシ二
等又ハ三等ヲ減シテ處断セサルヲ得ス若
シ又銃ヲ以テ人ヲ殺サントシタル片假令
敵手ニ中ラサルモ已ニ其銃ヲ放テタル片
ハ意外ノ舛錯ニ因テ遂ケサル者ト為シ一
等又ハ二等ヲ減シテ處断セサルヲ得ス此
レ其權衡ヲ得サルノ一ナリ又銃殺ノ一例
ニ於テモ既ニ一度發放シタルニ其中ラサ
ルヲ見テ再ヒ發セントスルニ臨ミ人ニ阻
止セラレタル片ハ如何意外ノ舛錯ニ非ス
シテ意外ノ障礙ト謂ハサルヲ得ス此レ其

權衡ヲ得サルノ二ナリ且又盜犯ノ一旦其
財ヲ得タル者ハ直チニ取還サル、モ意外
ノ障礙ニ因テ遂ケサル者ニ非ス意外ノ舛
錯ニ因テ遂ケサル者ナリト謂フト雖モ其
既ニ財物ヲ持テ去ル者ハ盜罪ヲ遂ケタル
者ナルヲ以テ暫ク論セス例ヘハ其財物ヲ
獲取セントシ其盜所ヲ動カスヤ否ナ直チ
ニ事主ニ捕獲セラレ一旦盜所ヲ動カス
モ狼狽シテ直チニ其財ヲ捨テ逃去スル者
ノ如キハ一概意外ノ舛錯ニ因テ遂ケサル
者ニ引擬スルヲ得ス
右ニ掲クル如ク犯罪ノ情状錯雜シテ判然
意外ノ障礙及ヒ意外ノ舛錯ノ二類ニ區別

三難キヲ以テ本條ハ司法省上申ノ法案ヲ
廢シ各國刑法ノ成文ニ從ヒ障礙舛錯ノ二
類ヲ一條ニ纏メ一等又ハ二等ヲ減スト定
メタルヲ以テ判官罪ヲ判決スルニ臨メハ
本條記載スル所ノ障礙ト謂フハ事實ニ於
テ舛錯ヨリ一段輕キ者ト見做シ一等二等
ノ間ニ於テ犯狀ヲ斟酌考量シテ科断スル
ヲ要スル者ナリ
且ツ司法省上申ノ法案ニ於テハ本犯ノ真
心悔悟ニ因テ自ラ其罪ヲ遂ケサル時及ヒ
事物ノ性質施用ノ方法ニ於テ害ヲ為スル
理ナク若クハ害ヲ為スト雖モ本犯ノ目的
ヲ遂ク可キ理ナキ片ハ未遂犯罪ヲ以テ論

セス止タ現ニ加ヘタル毀傷損害ノ罪ヲ論
スト未遂犯罪ノ變例ヲ二條ニ分テ記載セ
シト雖モ本條意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因
テ未タ遂ケサル片ハト記載スルニ於テハ
其真心悔悟ニ因テ自ラ其犯罪ヲ遂ケサル
者ハ未遂犯罪ノ性質ニ非サルヲ言外ニ判
然セリ故ニ其所為ノ更ニ害ヲ遺サ、ル片
ハ其罪ヲ論セサルヲ言ヲ待タス若シ又害
ヲ加ヘタル後悔悟シテ自カラ其罪ヲ遂ケ
サル者ハ其加ヘタル害ニ就キ各其刑名ア
ル本條ニ依リ處分スルヲ得ルヲ以テ此ノ
真心悔悟ニ因テ云々ノ條ハ削除シタル者
ナリ又事物ノ性質施用ノ法ニ於テ害ヲ為

スノ理ナク若クハ害ヲ為スト雖モ本犯ノ
目的ヲ遂ク可キ理ナキ片ハ止タ現ニ加ヘ
タル毀傷損害ノ罪ヲ論スト掲ケタリト雖
モ例ヘハ茲ニ人アリ已レノ敵手ヲ毒殺セ
ント欲シ毒物ト思ヒ間々錯テ餘物ヲ服セ
シメタリ因テ其敵手ニ於テハ更ニ害ヲ受
ケサリシ此レ即テ事物ノ性質ニ於テ害ヲ
為スノ理ナシト雖モ若シ其犯人ヲ不問ニ
置カントスル乎危険ノ甚シキ者ナリ又銃
ヲ放テ人ヲ殺サントスルニ錯テ彈丸ヲ装
セサルニヨリ其敵手ニ害ヲ被ラシメサリ
シ此レ即テ施用ノ方法ニ於テ害ヲ為スノ
理ナシト雖モ又其犯人ヲ不問ニ置クハ甚

ク道理ニ適セサル者ナリ右等ノ理由アル
ヲ以テ此ノ條モ亦削除セリ若シ實際此等
ノ事ノアルニ臨メハ其事タル甚ク危険ニ
涉ル者ナルヲ以テ未遂犯罪ト為シテ論シ
酌量減等ヲ與フルノ外法律上他ノ恩典ヲ
與ヘサル者トス

第百十三條 重罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサ
ル者ハ前條ノ例ニ照シテ處断ス
輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ本條
別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ
處断スルヲ得ス
違警罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ其
罪ヲ論セス

重罪ハ其罪ヲ犯サントセシ初ヨリ其之ヲ
遂ルニ至ル迄多少ノ猶豫アリ且ツ此ノ罪
ハ專ラ其所為顯然ニ屬スルヲ以テ容易ニ
之ヲ認知スルヲ得ルニ因リ毆打創傷ノ
罪偽證ノ罪等ノ如ク未遂犯罪トシテ罰ス
可キ猶豫ナキ者ヲ除クノ外總テ其犯サニ
百トシテ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シ處断
スル者トス

然ルニ輕罪ハ其為ス所輕淺ニシテ未遂犯
罪トシテ罰ス可キ猶豫アル者甚タ寡ナシ
且ツ其罪ヲ犯サントスル所為タルヲ判然
タラサル者多シ例ヘハ人ノ住所ヲ侵ス罪
公務ヲ行フヲ拒ム罪身分ヲ詐稱スル罪人

ヲ脅迫スル罪等ノ如ク已ニ人ノ住所ヲ侵
シ公務ヲ拒ミ身分ヲ詐稱シ人ヲ脅迫シタ
ル後ニ非サレハ其罪ヲ犯サントセシヤ否
ナ未タ知ル可カラス故ニ輕罪ハ各本條ニ
於テ別ニ其遂ケサル者ヲ罰スルヲ定メ
タル者ニ非サレハ重罪ト均シク處断ス可
カラサル者トス其各本條ニ於テ此罪ノ未
タ遂ケサル者ヲ罰スルヲ定メタル者ハ
竊盜詐偽取財墳墓ヲ發掘スル罪私印私書
ヲ偽造スル罪官印ヲ偽造スル罪往来通信
ヲ妨害スル罪銃礮彈藥ヲ私造スル罪囚徒
逃走ノ罪等トス此等ノ罪ハ其犯サントス
ル所為タルヲ判然ニ易ク且ツ其罪ヲ遂ル

ニ至ル迄多少ノ猶豫アル者ナルヲ以テ未
夕其罪ヲ遂ケスト雖モ亦前條ニ照シ已ニ
遂ケタル者ニ一等又ハ二等ヲ減シテ處斷
スル者トス
違警罪ハ過誤ニテ犯ス者ト雖モ其刑ヲ免
カル、フヲ得サル者ナリ且ツ此ノ罪ハ其
故意ニ出ルモ專ラ各種ノ規則ニ違背シ又
ハ急テ其規則ヲ遵奉セサル者ニ係ルヲ以
テ其犯サントシテ遂ケサル者ヲ識認スル
一甚々難ク且ツ稍々其犯サントシテ遂ケ
サル者ト識認シ得ルフアルモ畢竟此ノ罪
ハ極テ輕キ者ナルニヨリ其犯サントシテ
未夕遂ケサル者ハ不問ニ置ク者トス

第十章 親屬例

第百十四條

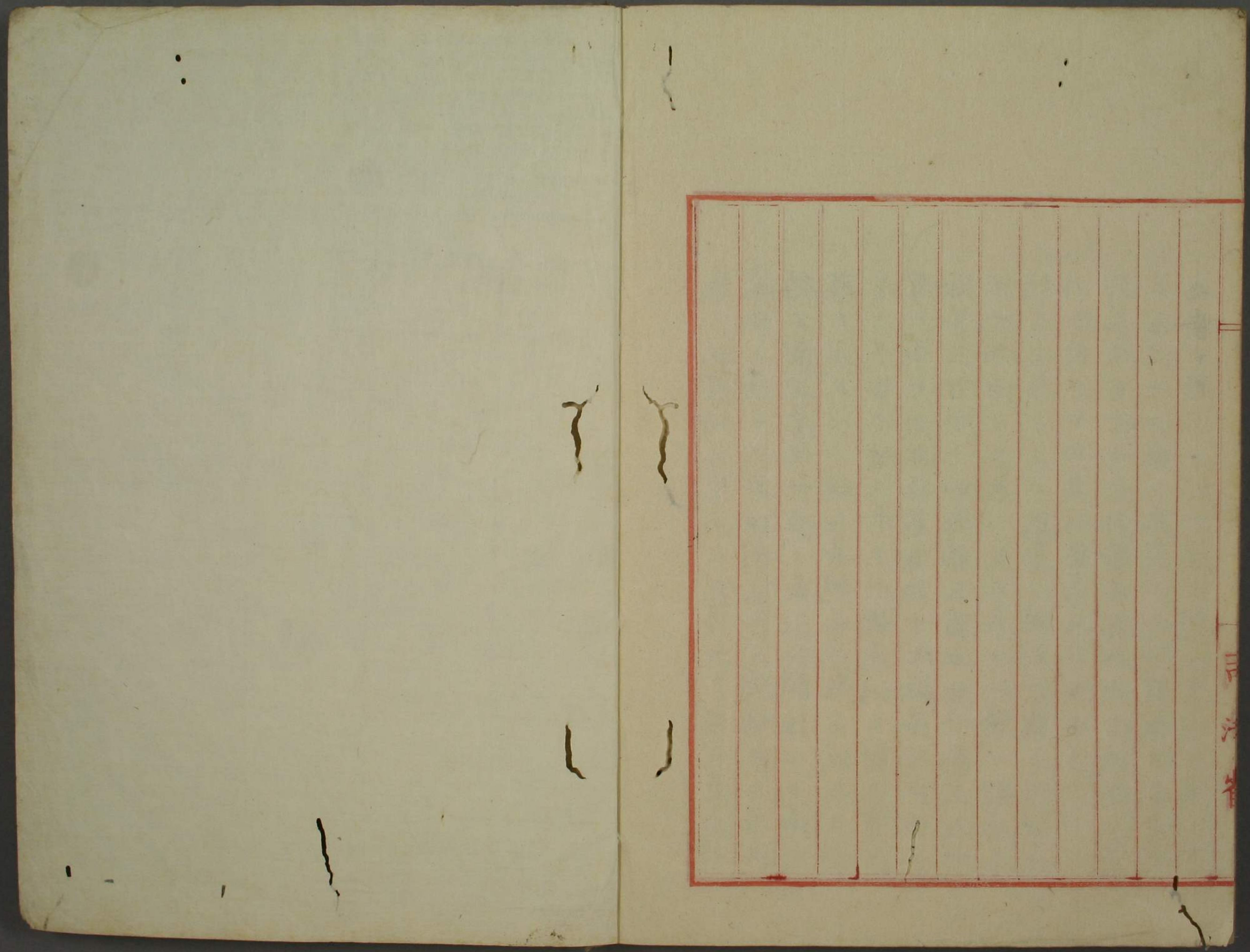
此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左
ニ記載シタル者ヲ云フ

- 一 祖父母父母夫妻
- 二 子孫及ヒ其配偶者
- 三 兄弟姉妹及ヒ其配偶者
- 四 兄弟姉妹ノ子及ヒ其配偶者
- 五 父母ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者
- 六 父母ノ兄弟姉妹ノ子
- 七 配偶者ノ祖父母父母
- 八 配偶者ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者
- 九 配偶者ノ兄弟姉妹ノ子
- 十 配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹

第百十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外
祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ
子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姉
妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姉妹同シ
養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ
從來ノ制タル五等親ノ法ハ今日ノ情体ヲ
以テ之ヲ觀レハ其親キ者モ疎ニ過キ且ツ
其法ニ之ヲ掲ケサル者アリ又疎ナル者モ
掲ケテ親シキ者ノ上ニ置クコトアル等其時
情ニ適セサル者甚タ多シ故ニ本刑法ハ歐
洲各國ノ法ヲ折衷シ本屬親ニ於テモ疎ナ
ル者ハ之ヲ除キ姻屬親ニ於テモ親シキ者
ハ之ヲ掲ケタリ尤モ茲ニ掲クル親屬例ノ

事ハ犯罪相容陰スルヲ得ルコト及ヒ危急相
救フヲ得ルコト等但刑法上ニ關係スル者ヲ
掲ケ喪服其他一般ノ民法ニ關係シタル者ニ
非サルヲ以テ頗ル其親屬ノ數ヲ減シタル
者ナリ各本條ニ於テ此親屬例ニ因ル可キ
者ハ第七十五條第百二十七條第百五十三
條第三百四十四條第三百五十條第三百六
十一條等トス然ルニ第三十一條ノ親屬ニ
就テハ恐ラクハ民事ノ規則ニ讓リ此親屬
例ニ因ラサル者ト思考セラレタリ
其第三百七十七條第三百八十七條及ヒ第
三百九十八條ニ記載シタル親屬ハ亦此親
屬例ニ因ラサルヲ以テ別ニ其例ヲ掲ケタ

凡者十... 三百六十八... 其業三百六... 四百... 長... 新... 舊... 非... 賦... 姓... 車...



五
六
七

